病棟・外来 化学療法ワークシート <[4週年	[]:Nivolumab療法(肺がん)> 第 コース
I. 基本情報	
患者ID @PATIENTID [4週毎]: 生年月日 @PATIENTBIRTH3	Nivolumab療法(肺がん)プロトコール(every 4 weeks) day1・・・・・・29
Nivolumab (オプジーボ) 480mg/body ↓ next
│ 患者氏名	in→
性別 @PATIENTSEXN	
年齢 @PATIENTAGEFORMATTED	
	学療法開始日〉年月日
■ □非小細胞肺がん ■ (前コースの投・ ■ オプジーボ	
## #P \(\pi \tau_{\tau_1}\)	mg
Ⅱ.化学療法実施過程	
* 投与日当日のチェック事項 (記載のない場合はDr. に確	訟を行った後、薬局3689に連絡する) ┓
薬剤名 規格 数量	
1) 生食	3
2) オプジーボ 240mg/24mL ×()\	,
生食 50mL X1E	
(持続点滴側管:0.5時間)	
3) 生食 50mL × 1E	3
(持続点滴側管:全開で フラッシュ用)	
T	_
Ⅲ. 化学療法剤投与量算出 <nivolumab投与量></nivolumab投与量>	 <備考欄>
□前コースと投与量同じ(2コース目以降のみ)	・インフュージョンリアクションを起こした場合、次回コースよ
」 身長(cm) 体重(Kg)	│ │りタリオン錠10mg×1錠、カロナール錠200mg×3錠をオプ │ │ジーボ投与1時間前に内服する。
体表面積(m²) m²	・インラインフィルター(0.2~0.22 μ m)を使用すること。
Nivolumab(オプジーボ) 投与量(mg/body)	→JMS輸液セット: PVCフリーで可(上記条件を満たす)
$=480 \text{mg/body} \times (\%)$	
	主治医 薬剤師 薬剤師
	* Dr. が二重線の枠内を記入して 開始前日10:30までに薬局へ提出してください。
423.7 薬局 改訂	」 開始削り10.00までに栄向い旋山しててたさい。

			IIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIII	ਨਾ	
_I . 基本情報					
患者ID @PATIENTID	(維持療法期①)D	urvalumab+Tremelin	numab療法プロ	コトコール(ev	very 8 weeks)
生年月日 @PATIENTBIRTH3			day1••••	29	••• 57
	Tremelimumab(イジュ			ļ	next
患者氏名 @PATIENTNAME	Durvalumab(イミフィン	グ) 1500mg/body	\downarrow	\downarrow	in→
性別 @PATIENTSEXN					
年齢 @PATIENTAGEFORMATTED	 				
〈疾患名〉	(前コースの化学	療法開始日〉	年	月 日	
. – .	(前コースの投与			/ <u> </u>	
□非小細胞肺がん	II II				
# #n □#11 □#51	イミフィンジ	イジュド			
<u>告知□あり□なし</u>]	g mg			
Ⅱ. 化学療法実施過程					
*投与日当日のチェック事項 (記載のない	1場合はDr. に確認	を行った後、薬局30	889に連絡する	5)	
		第1日目	第29日目		
薬剤名 規格	数量	()	()	
1) 生食 100mL	× 1B				
(持続点滴メイン:ルート確保用)					
	, , , , , ,				
2) イジュド 25mg/1.25mL	×()V				
生食 250mL	X1B				
(持続点滴側管:1時間)					
3)生食 50mL	× 1B				
(持続点滴側管:全開で フラッシュ用)					
4) イミフィンジ 500mg/10mL	×()V				
_					
イミフィンジ 120mg/2.4mL	×()V				
生食 250mL	X1B				
(持続点滴側管:1時間)					
5, 4, 6					
5) 生食 50mL	× 1B				
(持続点滴側管:全開で フラッシュ用)					
Ⅲ. 化学療法剤投与量算出					
		<備考欄>			
<tremelimumab・durvalumab抄 一一前コースと投与量同じ(2コース目以降</tremelimumab・durvalumab抄 		・インフュージョンリブ	アクションを起こし	た捏合 次回	コース上リタロナ
□	のみ) Kg)	ン錠10mg×1錠、カロ			
一	r(g)	~1時間前に内服す	る。		
		•0.2又は0.22 µ mイン	_/ ラインフィルター	(ポリエーテル	スルホン製)を
T	/L L X	使用すること。 →JMS輸液セット:P'	VCフリーで司(上:	記冬仕を滞た	व)
	mg/body)	・本レジメンは、Durv			
=75mg/body	× (%)	法実施後に施行する	,)。		****
	/1 1 1	・本レジメンは1コース(維持療法期の)Dura			
Durvalumab(イミフィンジ)投与量((維持療法期②)Durv	raiumaD 想法个移	119 Oo	
=1500mg/body	× (%)	<u></u>			
		主治医	薬剤的	币	薬剤師
					-
		* Dr. が二重紡			
		開始前日10:3	0までに薬局	へ提出して	ください。
23. 7 薬局 改訂					

{病棟・外来} 化学療法ワークシートく(維持療	§法期②)Durvalumab療法>⌊第 □─ス
	期②)Durvalumab療法プロトコール(every 4 weeks)
生年月日	day129
■ Batta @PATIENTNAME は Durvalumab(イミフィー	ンジ) 1500mg/body
思有以有 WFATIENTINAIVIE	in→
性別 @PATIENTSEXN (
年齡 @PATIENTAGEFORMATTED	
〈疾患名〉 【前コースの化学	·療法開始日〉 年 月 日
□非小細胞肺がん (前コースの投与	
イミフィンジ	, = /
	ng
Ⅱ.化学療法実施過程	
*投与日当日のチェック事項 (記載のない場合はDr. に確認	を <u>行った後、薬局36</u> 89に連絡する)
] L 第1日目
薬剤名 規格 数量	
1) 生食 100mL ×1B	
(持続点滴メイン:ルート確保用)	
2) イミフィンジ 500mg/10mL ×()V	
生食 250mL X1B	
(持続点滴側管:1時間)	
」 3)生食 ×1B	
(持続点滴側管:全開で フラッシュ用)	
(特別点周則目・主用で フラクノエ用)	
Ⅲ. 化学療法剤投与量算出	
	<備考欄>
<durvalumab投与量> 「前コースと投与量同じ(2コース目以降のみ)</durvalumab投与量>	\ ハff 'つ 1 キル / ・インフュージョンリアクションを起こした場合、次回コースよりタリオ
身長(cm) 体重(Kg)	ン錠10mg×1錠、カロナール錠200mg×3錠をイミフィンジ投与30分
体表面積(m ²)	
	使用すること。
Durvalumab(イミフィンジ)投与量(mg/body)	→JMS輸液セット: PVCフリーで可(上記条件を満たす) ・本レジメンは、(維持療法期①)Durvalumab+Tremelimumab療法実
=1500mg/body × (%)	施後に施行される。
	主治医 薬剤師 薬剤師
	* Dr. が二重線の枠内を記入して
	開始前日10:30までに薬局へ提出してください。

病棟・外来 化学療法ワークシー	'ート<[術前]:Nivolumab+PEM+CBDCA療法> [第 コー
I. 基本情報	
患者ID @PATIENTID 生年月日 @PATIENTBIRTH3	[術前]:Nivolumab+PEM+CBDCA療法プロトコール(every 3 weeks day1・・・・・・day22
	Nivolumab(オプジーボ) 360mg/body ↓ next PEM(ペメトレキセド) 500mg/m² ↓ in→
	CBDCA(カルボプラチン) AUC6 ↓
〈疾患名〉 【	- <i></i>
□ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □	
告知 □あり □なし	オプジーボ ペメトレキセド カルボプラチン mg mg mg
Ⅱ. 化学療法実施過程	
*投与日当日のチェック事項 (記載のない場合は	<u> </u>
薬剤名 規格	数量 (
1) イメンドカプセル (内服: day1はペメトレキセド開始1~1.5時間前	× 1セット 125mg 80mg 80mg
2) 生食 100mL (持続点滴メイン:ルート確保用)	X1B
(1寸が(点) 7 1 7 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	×()v
オプジーボ 120mg/12mL	×()V
生食 50mL (持続点滴側管:0.5時間)	X1B
4) デキサート注 3.3mg/1mL	× 2A
パロノセトロン点滴バック 0.75mg/50mL (持続点滴側管:0.5時間)	× 1B
5) ペメトレキセド 800mg/32mL	×()V 必要量を注射筒で抜き取り、日局
ペメトレキセド 500mg/20mL ペメトレキセド 100mg/4mL	×()V 理食塩液に添加して約100mLとす ×()V
生食 100mL x1B(生理食塩	
(持続点滴側管:10分)	
6) カルボプラチン 450mg/45mL カルボプラチン 150mg/15mL	×()V
カルボプラチン 50mg/5mL	×()V
生食 250mL (持続点滴側管:1時間)	× 1B
7)生食 50mL	× 1B
(持続点滴側管:全開で フラッシュ用)	
Ⅲ. 化学療法剤投与量算出	
<nivolumab・pem・cbdca投与量> □前コースと投与量同じ(2コース目以降のみ)</nivolumab・pem・cbdca投与量>	・オプジーボ:インフュージョンリアクションを起こした場合、次回
	コースよりタリオン錠10mg×1錠、カロナール錠200mg×3錠をオ ジーボ投与1時間前に内服する。
体表面積(m ²)	・インラインフィルター(0.2~0.22 µ m)を使用すること。 →JMS輸液セット:PVCフリーで可(上記条件を満たす)
Nivolumab(オプジーボ) 投与量(= 360mg/body ×(mg/body) ペメトレキセド: 投与1週間以上前より①パンビタン末1g連日内服②メチコバール注2Aを9週毎に投与。 ・本レジメンは3コース実施予定。
PEM(ペメトレキセド)投与量(mg/body)
= 500mg/m ² ×体表面積(m ²)×	× (%)
	mg/body) 主治医 薬剤師 薬剤師
$= [CCr()+25] \times \overline{AUC6} \times ($	(%)
	<u> </u>
	開始前日10:30までに薬局へ提出してくださ

		1							
	病棟•外来	化学療法ワークシ	ンート<[術前	[]:Nivolum	ab+PE	M+CDDP(ショ	ョート)療法>	第	コース
I . 基本作									
患和 生年		PATIENTID TIENTBIRTH3	[術前]:N	livolumab+F	PEM+C	DDP(ショート)	寮法プロトコー day1・・・・	ル(ev	very 3 weeks)
			Nivolum	ab(オプジ-	ーボ)	360mg/boo	•		····day22 ;
忠石	氏名 @PA ⁻	TIENTNAME	1.5	ペ사レキ		500mg/r			in→
	,,,,	ATIENTSEXN	1 1	P(シスプラ	チン)	75mg/r	n^2 \downarrow		i
年	齡 @PATIEN	TAGEFORMATTE	<u>:DI</u>						
	〈疾患名			-スの化学療	法開始	日〉	年		月日
	□非小細胞肺かん	バ非扁平上皮がん		の投与量〉 パジーボ	~	ペメトレキセド	シスプラチ	ر ۸	
告 知	<u> □あり □なし</u>			mg		mg mg		mg	
	療法実施過程	/=7±1: 0.4:1 . IB A / L	TT	/- + /// -	*	001-1±42-±7			
* 投与日	当日のチェック事項	(記載のない場合は	Dr. に催認を	行つた後、第	果同36	891〜進船する) 		$\neg \vdash \vdash \vdash$
						第1日目	第2日目	第3日目	第4日目
	薬剤名	規格	数量		()	()		
1) ソルデ	ム3A 点滴メイン:ルート確保用)	200mL		X1B					
2) オプジ		240mg/24mL	×()V					
オプジ 生食	ーボ	120mg/12mL 50mL	×()V X1B					
	点滴側管:0.5時間)	30mL		A1B					
	セトロン点滴バッグ	0.75mg/50mL		× 1B					
デキサ (持続)	-—ト注 点滴側管:0.5時間)	3.3mg/1mL		× 3A					
4) ペメトレ		800mg/32mL	×()V					で抜き取り、
	ノキセド ノキセド	500mg/20mL 100mg/4mL	×(×()V)V			→ 日局生理1 → 約100mLと		をに添加して
生食		•	理食塩液に添加し	て約100mL)		K		- 7 W o)
(持続) 5) イメント	点滴側管:10分) ジカプセル			× 1セット					
	:day1はシスプラチン投与の	01~1.5時間前に服用)				125mg	80mg	80mg	g
6) デカドI (内服・	ロン錠 :1日2回 朝·昼食後)	0.5mg/錠		×16錠/日					
7) 硫酸M		20mEq/20mL		× 0.4A					
アスパ ソルデ	ラカリウム注 - /- 1	10mEq/10mL 500mL		×1A ×1B					
	点滴側管:1時間)	OOOME		× 15					
	ットールS注射液 点流側筒・0.5時間)	300mL		200mL					
(持続) 9) シスプ	点滴側管:0.5時間) ラチン注	50mg/100mL	×()V					
シスプ	ラチン注	25mg/50mL	×()V					
シスプ 生食	ラチン注	10mg/20mL 500mL	×()V 300mL					
	点滴側管:1時間)								
10) アスパ ソルデ	ラカリウム注 ム1	10mEq/10mL 500mL		×1A ×1B					
	点滴側管:1時間)	-							
Ⅲ. 化学组	療法剤投与量算出		= \		, I II	-1/1 11111			
	< Nivolumab ースと投与量同じ(2コ	・PEM・CDDP投与量 ース日以降の私)	重 >			考欄> シーボ:			
□ #ij → -	ー人と投与重向し(2コ 身長(cm) 体重(Kg)	・イン	フュージョンリア	クションを起こし		
体	表面積(m ²)			リジーオ	オン錠10mg×1; ∜投与1時間前に	錠、カロナール釒 「内服する。	Œ2UUm	g×3延を オ フ
	Nivolumab(オプジー:	ボ)投与量(=360mg/body		body) %)	・イン・	ラインフィルター	(0.2~0.22 μ m)? Cフリーで可(上		
	DEM/ペリニナム		`	/body)	•day1	~3は1000mLの		山木汁	で心でイング
	= 500mg/m ² ×体表	ド)投与量((面積($\frac{\text{mg}}{\text{m}^2}$ × (body) %)		トレキセド: レキセド投与1调	□間以上前より①)パント	- - 「タン末1₅連日
		ン)投与量(body)	内服。	②メチコバール	注2Aを9週毎に		- / - / N 18/E H
	= 75mg/m ² ×体表	面積($m^2) \times ($	%)	·本レ	ジメンは3コース 	美肔 下疋。		
						主治医	薬剤師] [薬剤師
1								1 1	

病棟・外来 化学療法ワーク	シート<[術前]: Nive	olumab+PTX+CBDCA療法>	第コース
I. 基本情報	<i></i>		
患者ID @PATIENTID	[術前]:Nivolu	umab+PTX+CBDCA療法プロトコール(
生年月日 @PATIENTBIRTH3	Nivolumah(+	day1・・ プジーボ) 360mg/body ↓	next
患者氏名 @PATIENTNAME	PTX(パクリタ		next in→
性別 @PATIENTSEXN	CBDCA(カル		
年齢 @PATIENTAGEFORMATTED	<u> </u>		_ <i></i>
〈疾患名〉	〈前コースの化学療	秦法開始日〉	年 月 日
□非小細胞肺がん	〈前コースの投与量〉		
告知 □あり □なし	オプジーボ mg	パクリタキセル カルボブ mg	^パ ラチン mg
	- - - - - - - - - - - - - - - - - - -	(に連絡する)	
・及子口当日のアエアア争奏(記載ののの)物目16日、10階	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		
** 文II	#1 ⊟	第1日目 第2日目	第3日目
薬剤名規格	数量		
1) イメンドカプセル (内服:day1はパクリタキセル投与の1~1.5時間前に服用)	× 1セット	125mg 80mg	80mg
2) 生食 100mL (持続点滴メイン: ルート確保用)	× 1B		
3) オプジーボ 240mg/24mL	×()V		
オプジーボ 120mg/12mL	×()V		
生食 50mL 50mL (持続点滴側管:0.5時間)	X1B		
4) デキサート注 3.3mg/1mL	× 6A		
ファモチジン注 20mg/20mL	× 1A		
生食 50mL (持続点滴側管:5分)	X1B		
(X5錠		
(PAM: ハックタイ とか) から 10 mm (PAM: 10 mm) (PAM	X1B		
(持続点滴側管:0.5時間)			
7) パクリタキセル注 100mg/16.7mL パクリタキセル注 30mg/5mL	×()V ×()V		
生食 500mL	× 1B		
(持続点滴側管:3時間)			
8)カルボプラチン注 450mg/45mL カルボプラチン注 150mg/15mL	×()V ×()V		
カルボプラチン注 50mg/5mL	×()V		
生食 250mL	× 1B		
(持続点滴側管:1時間)	V 1D		
9) 生食 50mL (持続点滴側管:全開で フラッシュ用)	× 1B		
Ⅲ. 化学療法剤投与量算出			
	,	<備考欄>	
□前コースと投与量同じ(2コース目以降のみ)	K)	・インフュージョンリアクションを起こした ン錠10mg×1錠、カロナール錠200mg×	
身長(cm) 体重(体表面積(m ²)	Kg)	間前に内服する。 ・オプジーボ:0.2又は0.22 μ mのインラ・	インフィルターを使用するこ
Nivolumab (オプジーボ) 投与量 (mg/body)	と。→JMS輸液セット: PVCフリーで可(_ ・本レジメンは3コース実施予定。	上記条件を満たす)
= 360mg/body			
PTX(パクリタキセル)投与量 (= 200mg/m ² ×体表面積(m ²	mg/body)		
CBDCA(カルボプラチン)投与量(mg/body)		
· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	× (%)	主治医薬剤師	薬剤師
		* Dr. が二重線の枠内を記入して	
123. 7 薬局 改訂		開始前日10:30までに薬局へ提出してください。	

病棟・外来化学療法ワークシ	ノート<(放射線治	ì療後)Durvalumab	維持療法>	第コース
患者ID @PATIENTID	(放射線治療	後)Durvalumab維持		ール(every 4 weeks)
生年月日 @PATIENTBIRTH3		***	day1••••	= -
患者氏名 @PATIENTNAME	Durvalumab(イミフィン	ンシ) 1500mg/day	1	next in→
窓省以行				III '
性別 @PATIENTSEXN				
年齡 @PATIENTAGEFORMATTED	Ĺ <i></i>			
〈疾患名〉	(前コースの化学	療法開始日〉	年	月日
□非小細胞肺がん	〈前コースの投与		<u> </u>	7. –
	イミフィンジ	王 /		
告知 □あり □なし	m	g		
Ⅱ. 化学療法実施過程 _*投与日当日のチェック事項 (記載のない)	、場合はDr に確認	!を行った後 薬局36	89に連絡す	3)
<u> </u>	<u> </u>	10000000000000000000000000000000000000		Ψ7
		第1日目		
薬剤名 規格	数量	()		
1) 生食 100mL	× 1B			
「持続点滴メイン:ルート確保用)	^ 10			
(特税点滴グイン:ルード帷休用)				
2) イミフィンジ 500mg/10mL	×()V			
生食 250mL	X1B			
(持続点滴側管:1時間)				
3) 生食 50mL	× 1B			
(持続点滴側管:全開で フラッシュ用)				
(特別点周囲音・主用で フラブンエル)				
Ⅲ. 化学療法剤投与量算出				
	1	<備考欄>		
<u> </u>	ח גו)		クションを起こし	た場合、次回コースよりタリオ
身長(cm) 体重((707) (Kg)	ン錠10mg×1錠、カロ	ナール錠200m	g×3錠をイミフィンジ投与30分
体表面積(m ²)	1.6/	~1時間前に内服する	る。 ニハコ <i>ル</i> カ	/ポロテーニルフルナン・制/ナ
,		・0.2又は0.22 μ mイン 使用すること。	フィンフィルダー	-(ポリエーテルスルホン製)を
Durvalumab(イミフィンジ)投与量(mg/body)	→JMS輸液セット:PV		
=1500mg/body	× (%)	・本レジメンは原則、)	以 别	'後42日以内に使用開始する
		・本レジメンは投与開	始から原則最力	੮13コースまで。
		主治医	薬剤	師 薬剤師

Dr. が二重線の枠内を記入して 開始前日10:30までに薬局へ提出してください。

病棟・外来 化学療法ワークシー ト	く「アルコ	ール不耐料	定患者限定」DTX+サ	イラムザ療法> <u>[</u>	第 コース
I. 基本情報					
患者ID @PATIENTID 生年月日 @PATIENTBIRTH3	j			day1 · · · · ·	トコール(every 3 weeks ・・・・・day22
患者氏名 @PATIENTNAME			ムザ) 10mg/ セル「ニプロ」) 60mg	_	next in→
性別 @PATIENTSEXN 年齢 @PATIENTAGEFORMATTED	j L	1X(PUX+		g/ m ↓	-
〈疾患名〉	がコー	<u></u> スの化学		 年 月	<u>日</u>
□非小細胞肺がん	〈前コー	スの投与	量〉		
告 知 □あり □なし	サイ	(ラムザ m _,	ドセタキセル「ニプロ g m	_	
Ⅱ. 化学療法実施過程	ᄪᄼᄺᅙ	<i>! — T+t</i> r = ₹1	ナによる。英甲の	10001-1本42十7)	
<u>* 投与日当日のチェック事項 (記載のない</u> 	場合はリ	r. Le惟認	を行つに依、祭向。	10891〜建船する <i>)</i> 】	
			 第1日目	_	
薬剤名 規格	数量		(
1) 生食 100mL		× 1B		ī	
(持続点滴メイン:ルート確保用)				_	
2) レスタミンコーワ錠 10mg (内服:サイラムザ開始30分前に服用)		×5錠			
3) デキサート 3.3mg/1mL		× 4A × 1B			
グラニセトロン点滴バッグ 3mg/100mL (持続点滴側管:0.5時間)		^ 10			射筒で抜き取 里食塩液に添
4) サイラムザ 500mg/50mL	×()V		加して約250	
サイラムザ 100mg/10mL 生食 250mL x1B(生理食	×(:塩液に添加し)V いて約250mL)			
(持続点滴側管:1時間)					
5) 生食 50mL (持続点滴側管:全開で フラッシュ用)		× 1B			ァル「ニプロ」:
6)ドセタキセル「ニプロ」 80mg/4mL	×()V			確認後、発注し、納品 ご約1週間を要する。
ドセタキセル「ニプロ」 20mg/1mL 生食 250mL	×()V X1B		オーダーで検薬完了	確認者はワークシート 後、薬剤の必要量を
		XID.		発注する。	
7)生食 50mL		×1B		1	
(持続点滴側管:全開で フラッシュ用)				I	
Ⅲ. 化学療法剤投与量算出			<備考欄>		
<ram·dtx投与量> □前コースと投与量同じ(2コース目以降の</ram·dtx投与量>	(み)		サイラムザ:		
」	, , ,	Kg)			れば、2回目以降の投
体表面積(m ²)		8/		引まで短縮できる。 のフィルター(0.2)	。 又は0.22ミクロン)を使用
			する。		丁(上記条件を満たす)
RAM(サイラムザ)投与量(ma	/hody)	ドセタキセル「ニ	.プロ」:	
10mg/kg ×		%)		ニプロ」はアルコール こなし難物解性	フリー確認済み。 混注後、約50回転倒
		/hodu)	混和。		
DTX(ドセタキセル「ニプロ」) 投与量(= 60mg/m²×体表面積(m²)		/body) %)		ルコール不耐症	患者のみ使用。
z z may m z propagający m y	`				
			主治医	薬剤師	薬剤師
				 _泉 の枠内を記入し	
				30までに薬局へ	

病棟・外来 化学療法ワークシー	トく「アルコ	コール不耐	村症患者限定 」	DTX療法(肺がん)>	第	コース
 I.基本情報						
患者ID @PATIENTID	「アルニ	ニル不耐	症患者限定」	DTX療法(肺がん)プ		
生年月日 @PATIENTBIRTH3	, DT	v(ビ ル カナ.	セル「ニプロ」)	day1 • • • •		∙day22 next
患者氏名 @PATIENTNAME	וט	メ(トセダイ)	ゼル・一ノロ」)	oumg/m ↓		in→
性別 @PATIENTSEXN	1					
年齢 @PATIENTAGEFORMATTED	ــــــــــــــــــــــــــــــــــــــ					
〈疾患名〉			療法開始日〉	年 月	<u>日</u>	
□非小細胞肺がん		スの投与				
告知 □あり □なし	トセタキュ 	セル「ニプロ mg	_			
Ⅱ. 化学療法実施過程			<u> </u>			
*投与日当日のチェック事項(記載のない	場合はDi	r. に確認	を行った後、	薬局3689に連絡す	る)	
			第1日			
薬剤名 規格	数量		(<u> </u>		
1) ソルデム3A 200mL (持続点滴メイン:ルート確保用)		× 1B				
2) デキサート 3.3mg/1mL		×4A				
グラニセトロン点滴バッグ 3mg/100mL (持続点滴側管:0.5時間)		× 1B			キセル「ニ <u>」</u> キセル「ニ <u>」</u> エー確認後	プロ」: 、発注し、納品
3)ドセタキセル「ニプロ」 80mg/4mL	×()V		される	まで約1週	間を要する。
ドセタキセル「ニプロ」 20mg/1mL 生食 250mL	×()V X1B				はワークシート 剝の必要量を
工長 250ML (持続点滴側管:1時間)		AIB		発注す		
4) 生食 50mL		× 1B				
(持続点滴側管:全開で フラッシュ用)		~				
						
Ⅲ. 化学療法剤投与量算出 <dtx投与量></dtx投与量>			<備考欄)	>		
□前コースと投与量同じ(2コース目以降の	D.ZL)			~ / はアルコール不耐	対症患者の	 み使用。
身長(cm) 体重(70 F)	Kg)	・ドセタキも	ヹル「ニプロ」はアル	ールフリ	リー確認済み。
		Ng/	│・調製時、 │混和。	溶媒に対し難溶解り	性。混注後	、約50回転倒
ташк п			7EC1110			
ドセタキセル「ニプロ」投与量(mg/	/body)				
) × (%)				
						
			主治日	薬剤	甘巾	薬剤師
				二重線の枠内を記		- (18)
1.12 薬局 改訂			開始前	日10:30までに薬局	へ提出して	てください。

病棟·外来 化学织	を を き き き き き き き き き う し う り し り し り り り り り り り り り り り り り	シート <amr< b="">療</amr<>	法	第	コース
I. 基本情報				713	
患者ID @PATIENTID	,	AMR療法プロ	コトコール(every 3	weeks)	
生年月日 @PATIENTBIRTH3	AMR(カル	セド) 45mg/m ²	day1 • 2 • 3 ↓ ↓ ↓		···· day22 next
患者氏名		CI / Tomg/ III			in→
性別 @PATIENTSEXN 年齢 @PATIENTAGEFORMATTED					
〈疾患名〉	上・一・ 7 0 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1			年	
▽ 大思石/ □ 非小細胞肺がん	(前コースの	_			<u>, H</u>
□ 小細胞肺がん					
告知 □あり □なし	カルセ				
		mg			
Ⅱ. 化学療法実施過程 <u>*投与日当日のチェック事項 (記載のない</u>	場合はDr.に	<u>に確認を行った後、</u>	薬局3689に連絡する	<u>3)</u>	
英文1.47 +日-47	* L ⊟	第1日目	第2日目 第3日		
膜 類名 規格 1) 生食 100mL	数量 、	× 1B	7	<u>_</u>	
(持続点滴メイン:ルート確保用)	•	^			
2) デキサート注 3.3mg/1mL	;	× 2A			
がラニセトロン点滴バッグ 3mg/100mL (持続点滴側管:0.5時間)	;	× 1B			
	/			_	
3) カルセド 50mg/V 20mg/V	×(×()V 			
生食 50mL (快速点流侧筒,5八間)	2	!0mL			
(持続点滴側管:5分間)				_	
4) 生食 50mL (持続点滴側管:全開で フラッシュ用)	;	× 1B			
(17)地域が開展日・工間で プラファエバ				_	
□. 化学療法剤投与量算出					
□. 化子療法則孩子里昇山 <amr投与量></amr投与量>		<備考欄>	>		
□前コースと投与量同じ(2コース目以降の	0み)	カルセド:	いゆーム・一		ᄪᇄᆠᄀᄱᄼ
身長(cm) 体重(K	(g) 「Second III (g) 「がある。	ne以降においては、	、減重して	開始する場合
体表面積(m ²)		・他のアン	トラサイクリン系薬剤		
AMR(カルセド)投与量(mg/boo		治療が限界量に遺	≝している思	はは原則祭
) × (%)			
		主治医	薬剤	師	薬剤師
		* D* 48-	- 重線の炒肉を記じ	λ Ι ア	

開始前日10:30までに薬局へ提出してください。

病棟・外来 化学療法ワークシ	ンート <atezolizum< th=""><th>ab+nab-PTX+CBDCA療法></th><th>第 コース</th></atezolizum<>	ab+nab-PTX+CBDCA療法>	第 コース
I. 基本情報 患者ID @PATIENTID	Atezolizumah +		U(avary 3 weeks)
生年月日 @PATIENTBIRTH3		day1 • • 8	··15··day22
患者氏名 @PATIENTNAME		$(テセントリク)1200$ mg/body \downarrow ブラキサン) 100 mg/m 2 \downarrow \downarrow	next ↓ in→
性別 @PATIENTSEXN		ルボプラチン) AUC6 ↓	* "'
年齢 @PATIENTAGEFORMATTED			
〈疾患名〉 □非小細胞肺がん(非扁平上皮がん)	〈前コースの化学 〈前コースの投与量〉		年 月 日
告知 □あり □なし	テセントリク	アブラキサン カルボプラ	
<u>□ 日 </u>	"	ng mg	mg
*投与日当日のチェック事項(記載のない場合に	tDr. に確認を行	った後、薬局3689に連絡する)	
*** マルク +P+4/	**, 😑	第1日目 第2日目 第3日目 第8	日目 第15日目
薬剤名 規格 1) イメンドカプセル	数量 ×1セット		
(内服:day1はアブラキサン投与開始1~1.5時間前		125mg 80mg 80mg	
2) 生食 100mL (持続点滴メイン:ルート確保用)	X1B		
3) テセントリク 1200mg/20mL	×()V		
生食 250mL (持続点滴メイン:1時間)	× 1B		
4) 生食 50mL (持続点滴メイン:全開で フラッシュ用)	X1B		
5) デキサート注 3.3mg/1mL	×2A		
グラニセトロン点滴バッ· 3mg/100mL (持続点滴側管:0.5時間)	X1B		
6) アブラキサン 100mg 生食 100mL	×()V		
(持続点滴側管:0.5時間)	× 1B		
7)生食 50mL	X1B	アブラキサン:	<u> </u>
(持続点滴側管:全開で フラッシュ用)		 1Vあたり20mLの	の生食で溶解。残りの
8) カルボプラチン注 450mg/45mL カルボプラチン注 150mg/15mL	×()V ×()V		空ボトルに必要採取量 液中に不溶物がないが
カルボプラチン注 50mg/5mL	×()V		D ₀
生食 250mL (持続点滴側管:1時間)	× 1B		
9)生食 50mL	X1B		
(持続点滴側管:全開で フラッシュ用)	7.15		
Ⅲ. 化学療法剤投与量算出		∠ /++ +> 188 >	
< Atezolizumab·nab-PTX·CBDCA投与 □前コースと投与量同じ(2コース目以降のみ)	重 >	く備考欄> テセントリク:	
身長(cm) 体重(Kg)	・0.2又は0.22 µ mのインラインフィルターを使用す フリーで可(上記条件を満たす)	
体表面積(m ²)	- '6/	・初回投与の忍容性が良好であれば、2回目以降 きる。レアブラキサン:	全の投与は30分間とすることか(
Atezolizumab(テセントリク)投与量(mg/body)		伝票にシールを貼付する。
= 1200mg/body ×	%)	・溶解後に生食で希釈しない ・フィルター付きルートを使用しない	
nab-PTX(アブラキサン)投与量(mg/body)	・アレルギーが出た場合、次回コースよりパクリク ワ錠10mg×5錠、ファモチジン注×1Aを前投薬と	
	× (%)		· 5.
CBDCA(カルボプラチン)投与量(mg/body)	主治医薬剤師	薬剤師
$= [CCr()+25] \times \overline{AUC6} \times$			
		* Dr. が二重線の枠内を記入して 開始前日10:30までに薬局へ提出	 出してください。
23. 7 薬局 改訂		I MANUAL TO SOUTH CITE AND THE	

病棟・外来 化学療法ワーク	クシート <atezolizumab+pem+cbdca療法> 第 コース</atezolizumab+pem+cbdca療法>
I. 基本情報	¬ <i>\\\-\-\\-\\-\\-\\-\\-\\-\\-\\-\\-\\-\\-</i>
患者ID @PATIENTID 生年月日 @PATIENTBIRTH3	Atezolizumab+PEM+CBDCA療法プロトコール(every 3 weeks) day1・・・・・・day22
患者氏名 @PATIENTNAME	Atezolizumab (テセントリク) 1200 mg/body
性別 @PATIENTSEXN 年齢 @PATIENTAGEFORMATTED	CBDCA(カルボプラチン) AUC6 ↓
〈疾患名〉 □非小細胞肺がん(非扁平上皮がん)	(前コースの化学療法開始日) 年月日 (前コースの投与量)
	テセントリク ペメトレキセド カルボプラチン
<u>告 知 □あり □なし</u> Ⅱ 化学療法実施過程	mg mg mg
	はDr. に確認を行った後、薬局3689に連絡する)
	第1日目 第2日目 第3日目
業剤名 規格 1) イメンドカプセル	数量 ×1セット 105 00 00
(内服:day1はペメトレキセド開始1~1.5時間	
2) 生食 100mL (持続点滴メイン: ルート確保用)	X1B
3) テセントリク 1200mg/20mL	×()V
生食 250mL (持続点滴側管:1時間)	X1B
4) デキサート注 3.3mg/1mL	× 2A
グラニセトロン点滴バック 3mg/100mL (持続点滴側管:0.5時間)	× 1B
5) ペメトレキセド 800mg/32mL	×()V 必要量を注射筒で抜き取り、日局生
ペメトレキセド 500mg/20mL ペメトレキセド 100mg/4mL	×()V
生食 100mL (持続点滴側管:10分)	X1B
6) カルボプラチン 450mg/45mL	×()V
カルボプラチン 150mg/15mL カルボプラチン 50mg/5mL	×()V ×()V
生食 250mL	× 1B
(持続点滴側管:1時間) 7)生食 50mL	× 1B
(持続点滴側管:全開で フラッシュ用)	
Ⅲ. 化学療法剤投与量算出 <atezolizumab・pem・cbdca投与量< td=""><td>量 ></td></atezolizumab・pem・cbdca投与量<>	量 >
□前コースと投与量同じ(2コース目以降のみ)	・テセントリク:0.2又は0.22 µ mのインラインフィルターを使用すること、→、IMS輸液セット・PVCフリーで可(ト記条件を満たす)
身長(cm) 体重(体表面積(m ²)	Kg) ・テセントリクは初回投与の忍容性が良好であれば、2回目以降の 投与は30分間とすることができる。
Atezolizumab (テセントリク) 投与量 (mg/body) ペメトレキセド:投与1週間以上前より①パンビタン末1g連日内服。 ②メチコバール注2Aを9週毎に投与。
	× (%) ・本レジメンは原則最大4コース ・本レジメン終了後、Atezolizumah + PFM療法へ移行する。
PEM(ペメトレキセド) 投与量(= 500mg/m ² ×体表面積(m ²	$\frac{\text{mg/body}}{\text{mg/body}}$ %)
CBDCA(カルボプラチン)投与量(
$= [CCr()+25] \times \overline{AUC6}$	× (%)
	<u> </u>
23.7 薬局改訂	開始前日10:30までに薬局へ提出してください

	病棟・外来 化	学療法「	フークシー	-ト <atez< th=""><th>zolizumab+PEM療</th><th>法></th><th>第</th><th>コース</th></atez<>	zolizumab+PEM療	法>	第	コース
 I. 基本情報								
患者ID	@PATIENTID		A	tezolizun	nab+PEM療法プロ	トコール(ever	y 3 wee	ks)
生年月日	@PATIENTBIRTH	13				day1••••		• • day22
患者氏名	@PATIENTNA	ME		nab(テセン ハレキセド	トリク) 1200mg/body ・) 500mg/m ²	¥		next
性別	@PATIENTSEXN	v l	PEIVICA	トレチゼト	500mg/ m	1		in→
年齢	@PATIENTAGEFORM		į					
	 〈疾患名〉		(前コー)	スの化学	療法開始日〉	白	E 月	日
□非小	細胞肺がん(非扁平上皮	らがん)	(前コー	スの投与	·量〉			
				ントリク	ペルレキセド			
告 知 □あり	<u> </u>			m				
Ⅱ. 化学療法実施	 布過程							
	チェック事項 (記載のな	い場合に	はDr. に研	在認を行っ	った後、薬局3689に	連絡する)		
	- 1-15		- W		第1日目	1		
薬剤名	3. 規格 		数量		()			
1)生食 (持続点滴メ	100mL イン: ルート確保用)			X1B				
2) テセントリク	1200mg/20mL		×()V				
生食	250mL			X1B				
(持続点滴側	管:1時間)							
3) デキサート注	3.3mg/1mL			×2A				
グラニセトロン点	_			× 1B				
(持続点滴側						\		-11 1 = 11
4) ペメトレキセド	•		×()V				で抜き取り、
ペパレキセド	S		×()V)V		約100ml		
ペメトレキセド	100mg/4mL 100mL		×(X1B				
│				XID				
5) 生食	50mL			× 1B				
	管:全開で フラッシュ用])						
T	几 上 昌 笛 山					•		
Ⅲ. 化学療法剤技 「	x 7 里 昇 ഥ <atezolizumab pem投<="" td="" •=""><td> 与量 ></td><td></td><td></td><td><備考欄></td><td></td><td></td><td></td></atezolizumab>	 与量 >			<備考欄>			
□前コースと投.	与量同じ(2コース目以降				・テセントリク:0.2又は0			
身長(体表面積(cm) 体 m ²)			Kg)	と。→JMS輸液セット:F ・テセントリクは初回投 投与は30分間とするこ	与の忍容性が良好	に余件を満ん であれば、	2回目以降の
	… / (テセントリク)投与量(ma/	/body)	ペメトレキセド:投与1週	間以上前より介べ	シビタンチ	16連日内昭
Atezolizumab	- 1200mg/k	oody ×		%)	②メチコバール注2Aを	9週毎に投与。		
PEM(~	ペメトレキセド)投与量(mg/	/body)	・本レジメンは原則Atea われる。	zolizumab + PEM +	CBDCA療法	法施行後に行
= 500mg	ペメトレキセド)投与量(_ _{:/m²×体表面積(}	m ²)	× (%)				
					主治医	薬剤師		薬剤師
					/11	W.U.J.Hilly	\dashv	>I> / (3 Hely
					* Dr. が二重線	の枠内を記り		
					開始前日10:3			てください

病棟・外来 化学療法リークシート	· <atezolizumab獠法(術俊補助獠法)> 第 コース</atezolizumab獠法(術俊補助獠法)>
 I . 基本情報	
患者ID @PATIENTID	Atezolizumab療法(術後補助療法)プロトコール(every 3 weeks)
生年月日 @PATIENTBIRTH3	day1··················22
1 1 2	olizumab(テセントリク)1200mg/body → next
■ 患者氏名	in→
性別 @PATIENTSEXN !	
年齢 @PATIENTAGEFORMATTED 1	
	コースの化学療法開始日〉年月日
□非小細胞肺がん(術後補助療法) (前二	コースの投与量〉
	テセントリク
告 知 □あり □なし	mg
	-
Ⅱ.化学療法実施過程	+p 1-72-7-4-7-4-4-4-7-1-4-4-7-1-4-4-7-1-4-4-7-1-4-4-7-1-4-4-4-7-1-4-7-1-4-7
*投与日当日のチェック事項(記載のない場合に	<u> </u>
ᅓᇼᆔᄼ	
薬剤名 規格 数量	
1) 生食 100mL	× 1B
	~ 1B
(持続点滴メイン:ルート確保用)	
2) テセントリク 1200mg/20mL ×(()V
_	
生食 250mL	X1B
(持続点滴側管:1時間)	
3) 生食 50mL	× 1B
(持続点滴側管:全開で フラッシュ用)	· 15
(特別は周側官:主用で フラッンエ用)	
Ⅲ. 化学療法剤投与量算出	
<atezolizumab投与量></atezolizumab投与量>	<備考欄>
「前コースと投与量同じ(2コース目以降のみ)	・テセントリク:0.2又は0.22μmのインラインフィルターを使用するこ
身長(cm) 体重(κ _σ) と。→JMS輸液セット: PVCフリーで可(上記条件を満たす)
体表面積(m ²)	・ナセントリクは初回投与の忍容性が良好であれば、2回目以降の
THE CALL OF THE CA	投与は30分間とすることができる。 ・本レジメンは、プラチナ製剤を含む術後補助化学療法を1~4コー
Atezolizumab(テセントリク)投与量(

=1200mg/body × (%)
	<u> </u>
23.7 薬局 改訂	

病棟·外来	療法ワークシート<	Atezolizumab療え	去>	第		コース	
I. 基本情報							
患者ID @PATIENTID	At	tezolizumab療法プロ		ry 3 wee	ks)		
生年月日 @PATIENTBIRTH3	Atozolizumah (=+;	ントリク) 1200mg/body	day1••• l		• • • • •	• 22 next	
患者氏名 @PATIENTNAM		/トリク/ iZoomg/ body	*			in→	
性別 @PATIENTSEXN 年齢 @PATIENTAGEFORMAT	TED						
〈疾患名〉	 K前コースの化学	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	年		日		
■ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	(前コースの投与						
□ NE-1 definition to	テセントリク	厂里 /					
告知 □あり □なし		ng					
Ⅲ. 化学療法実施過程 *投与日当日のチェック事項 (記載の							
				.			
		第1日目	1				
薬剤名 規格	数量]				
1)生食 100mL	× 1B						
(持続点滴メイン:ルート確保用)							
2) テセントリク 1200mg/20mL	×()V						
生食 250mL	X1B						
(持続点滴側管:1時間)	, <u> </u>						
3)生食 50mL	× 1B						
(持続点滴側管:全開で フラッシュ							
]	•				
Ⅲ. 化学療法剤投与量算出							
	<atezolizumab投与量> <備考欄></atezolizumab投与量>						
「□前コースと投与量同じ(2コース目以	<u>、</u> 以降のみ)	・テセントリク:0.2又に	エ0. 22 μ mのイン	ブ インフィ	ルターを	を使用するこ	

<atezolizumab投与量></atezolizumab投与量>	<偏考懶 <i>></i>
□前コースと投与量同じ(2コース目以降のみ) 身長(cm) 体重(Kg) 体表面積(m ²)	・テセントリク:0.2又は0.22 µ mのインラインフィルターを使用すること。→JMS輸液セット:PVCフリーで可(上記条件を満たす)・テセントリクは初回投与の忍容性が良好であれば、2回目以降の投与は30分間とすることができる。
Atezolizumab(テセントリク)投与量(mg/body) =1200mg/body × (%)	
	主治医薬剤師薬剤師
	* Dr. が二重線の枠内を記入して 開始前日10:30までに薬局へ提出してください。

病棟・外来 化学療法ワー	ークシート <bevacizu< th=""><th>ımab+Atezolizumab療法> 第 コース</th></bevacizu<>	ımab+Atezolizumab 療法> 第 コース
患者ID @PATIENTID	Bevacizumab	+Atezolizumab療法プロトコール(every 3 weeks)
生年月日 @PATIENTBIRTH3		day1•••••day22
患者氏名 @PATIENTNAME	_ 	ベバシズマブ)15mg/kg ↓ next セントリク)1200mg/body ↓ in→
性別 @PATIENTSEXN		
年齢 @PATIENTAGEFORMATTE	<u>D</u> [
〈疾患名〉	(前コースの化学)	療法開始日〉 年 月 日
□非小細胞肺がん(非扁平上皮がん	11 11	
	ベバシズマブ	テセントリク
<u>告知</u> □あり □なし	m	g mg
Ⅱ.化学療法実施過程		
*投与日当日のチェック事項 (記載のない場合はDr. に	確認を行った後、薬局368	9に <u>連絡する) </u>
		第1 日日
数·刘 <i>石</i> + 1+ 14	** =	第1日目
薬剤名 規格	数量	
1)生食 100mL	× 1B	
(持続点滴メイン:ルート確保用)		
0) \$\int \int \int \int \int \int \int \int	v/ \\\	
2) ベバシズマブBS 400mg/16mL ベバシズマブBS 100mg/4mL	×()V ×()V	塩液に添加して約 100mLとする。
3	, , ,	100mL2 9 %.
	理食塩液に添加して約100mL)	
(持続点滴側管:1.5時間)		
3) テセントリク注 1200mg/20mL	×()V	
生食 250mL	× 1B	
(持続点滴側管:1時間)		
4) 生食 50mL	×1B	
(持続点滴側管:全開で フラッシュ用)		
_Ⅲ. 化学療法剤投与量算出		
< Bevacizumab・Atezolizumab投与量	≣ >	<備考欄>
□前コースと投与量同じ(2コース目以降のみ)		・テセントリク:0.2又は0.22 µ mのインラインフィルターを使用すること。→JMS輸液セット:PVCフリーで可(上記条件を
身長(cm) 体重(体表面積(m ²)	Kg)	満たす)
体表面積(m²)		・本レジメンはCBDCA+PTX+Bevacizumab+
	, , , ,	Atezolizumab療法終了後、行われる。
Bevacizumab (ベバシズマブ) 投与量 (mg/body)	・ベバシズマブは初回投与の忍容性が良好であれば、2回
= 15 mg/kg	× (%)	目の投与は60分間で行っても良い。2回目の投与において

	□前コースと投与量同じ(2コース目以降のみ) 身長(cm) 体重(体表面積(m ²)	Kg)
	Bevacizumab (ベバシズマブ) 投与量 (= 15mg/kg ×(mg/body) %)
	Atezolizumab(テセントリク) 投与量(= 1200mg/body ×(mg/body) %)
	_ 1200mg/ body	70)
H2	23.7 薬局 改訂	

も忍容性が良好であれば、それ以降の投与は30分間投与とすることができる。 ・テセントリクは初回投与の忍容性が良好であれば、2回目以降の投与は30分間とすることができる。

主治医		薬剤師		薬剤師	

BH的日10:30までに薬局へ提出してください。

病棟・外来	化学療法ワークシート <bevacizumab療法></bevacizumab療法>	第コース
I. 基本情報		_,_,_,
患者ID @PATIENTII 生年月日 @PATIENTBIR		y 3 weeks <i>)</i> •••••day22
患者氏名 @PATIENTN	Payanizumah (ベバシィブラブ) 15mg/kg	next
9171121111		in→
性別 @PATIENTSE 年齢 @PATIENTAGEFOR	1 5	
〈疾患名〉 □ 非小細胞肺がん	〈前コースの化学療法開始日〉 〈前コースの投与量〉	年 月 日
	ベバシズマブ	
<u>告 知□あり□</u> なし	mg	
Ⅱ. 化学療法実施過程 * 投与日当日のチェック事項 (記載のだい場合	idDr. に確認を行った後、薬局3689に連絡する)	
・以子口ヨロのアエノア事会(記載の多の物目	1851.1 に確認と行うた後、来周5000年度相方も	
薬剤名 規格	数量 ()	
1) 生食 100㎡	nL X1B	
(持続点滴メイン:ルート確保用)		
2) ベバシズマブBS 400mg/16m		量を注射筒で抜く り、日局生理食
ベバシズマブBS 100mg/4m	^{1L} ×()V	り、口周王垤艮 に添加して約
	nL X1B(生理食塩液に添加して約100mL) 100m	nLとする。
(持続点滴側管:0.5時間)		
3)生食 50㎡ (共統長帝側第三人間で、7年以) 8円		
□ (持続点滴側管:全開で フラッシュ用)□ 化学療法剤投与量算出	,	
<u> </u>		
□前コースと投与量同じ(2コース目じ		
身長(cm) 体表面積(m ²)	体重(Kg) H M用療法を行い、その後の維	付っ切のこのではいる。
TI ALIX	・2)は抗がん剤と併用療法時(
Bevacizumab (ベバシズマブ) 投与量 (= 15	mg/body) き続き点滴時間を0.5時間とす mg/kg ×(%)	ることが出来る。
	mg/ ng · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
		(本) (本) (本)
		<u> 薬剤師</u> 薬剤師
	- Pr. が二重線の枠内を記入し 開始前日10:30までに薬局へ提	
H23. 7 薬局 改訂	INDUSTRIAL TO SOLUTION OF THE PARTY OF THE P	

	病棟・外	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	-クシート<(CBDCA+	-PEM+Bevacizum	ab療法>	第	コース
I. 基本情		OBATICATIO	7 / 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7			<u> </u>		·
患者 生年人		@PATIENTID PATIENTBIRTH3	CBDCA	<u>+ PEM +</u>	-Bevacizumab療法	<u>フロトコール(</u> dav1・・・・	every	3 weeks)day22
患者		TIENTNAME	PEM(~>					next
性		PATIENTSEXN	CBDCA(ラチン) AUC6 ゛シス゛マフ゛)15mg/kg	Ţ		in→
年		NTAGEFORMATTE				·		اً ــــــــــــــــــــــــــــــــــــ
	〈疾思		11 11		张法開始日〉	年	F	日
	□非小細胞肺が	<i>6</i> 6	(前コースの	D投与量〉 レキセド	カルボプラチン	ベバシズマ	ァブ	
告知	<u> □あり</u> □なし	,		mg_	mg		mg	
	法実施過程	記載のない場合はDr. に		薬 巳2600	に海奴オス)			
* 技子口=	ロのアエクク事項(記	に戦のない場合はひにに	唯心で1 フルカ	、采周3003	に建船する)			
					第1日目			
	薬剤名	規格	数量		()			
1) ソルデ (持続)	・ム3A 点滴メイン:ルート確保用	200mL		X1B				
2)デキサ		3.3mg/1mL		×2A				
	セトロン点滴バック	3mg/100mL		X1B				
(持続,	点滴側管:0.5時間)					必要量を	·注射管	がで抜
	レキセド	800 mg/32 mL	× ()V		き取り、I	3局生	理食
	レキセド	500mg/20mL	×()V		塩液に溶 100mLと		. Tri
生食	レキセド	100mg/4mL 100mL	×()V X1B		4		
	点滴側管:10分)	TOOML		A I B				
 4) カルボ	プラチン注	450mg/45mL	×()V				
	プラチン注	150mg/15mL	×()V				
	プラチン注	50mg/5mL	×()V				
生食	点滴側管:1時間)	250mL		X1B		○ 亜 ■ +	- > - 64.6	±+
		400 /40 /	/	\\\		必要量を き取り、	↑注射局 日局生	司で扱) 理食
5) ベバシ ベバシ	バスマブBS	400mg/16mL 100mg/4mL	×(×()V)V				約
生食		100mL X1B(生	•	, .			9 % °	J
(持続	点滴側管:1.5時間)							
6) 生食		50mL		× 1B				
	点滴側管:全開で フ	ラッシュ用)						
_Ⅲ. 化学療: ┃	法剤投与量算出 < PEM・CBD(CA Bevacizumab 投与	- 量 >		<備考欄>			
□前⊐-		(2コース目以降のみ)			・ペメトレキセド投与			
<i>1</i> ⊥ →	身長(cm) 体重(Kg)	1g連日内服。 ②メチ ・5)は初回投与の 忍			
	長面積(DEM/ペルレナト	m ²) - いい tu ヒ 皂 (/1		投与は60分間で行	っても良い。2	回目の	投与におい
	PEM(ヘメトレイで = 500mg/m²×体ま	zド)投与量(素面積($\frac{\text{mg/l}}{\text{n}^2) \times (}$	oody) %)	ても忍容性が良好 ⁻ 分間投与とすること		ル以降0)投与は30
	•	ン)投与量(•	body)	・本レジメンは原則:			
)+25]×AUC6		%)				
Bevaciz	umab(ベバシズマ	ブ)投与量(mg/l	body)	主治医	薬剤師		薬剤師
		= 15mg/kg		%)				
					* Dr. が二重線の枠	内を記入して		L 1 \
3.7 薬局 改訂					開始前日10:30まで	ご~楽局へ提出!	しくだる	さい。

病棟・外来 化学療法	法ワークシート <cbdca+pem療法> 第 コー</cbdca+pem療法>
I.基本情報 患者ID @PATIENTID	CBDCA+PEM療法プロトコール(every 3 weeks)
思有ID @PATIENTID 生年月日 @PATIENTBIRTH3	day1·····day22
患者氏名 @PATIENTNAME	PEM(ペメトレキセド) 500mg/m² ↓ next CBDCA(カルボプラチン) AUC6 ↓ in→
性別 @PATIENTSEXN	
年齢 @PATIENTAGEFORMATTED	
〈疾患名〉	
□非小細胞肺がん	ペメトレキセド カルボプラチン
告知 □あり □なし	mg mg
Ⅱ. 化学療法実施過程 *投与日当日のチェック事項 (記載のない場合)	。 。はDr. に確認を行った後、薬局3689に連絡する)
薬剤名 規格	数量
1) ソルデム3A 200mL (持続点滴メイン: ルート確保用)	X1B
2) デキサート注 3.3mg/1mL	× 2A
グラニセトロン点滴バック 3mg/100mL (持続点滴側管:0.5時間)	× 1B
3) ペメトレキセド 800mg/32mL	×()V
ペメトレキセド 500mg/20mL ペメトレキセド 100mg/4mL	×()V / 液に添加して約
生食 100mL (持続点滴側管:10分)	X1B
4) カルボプラチン 450mg/45mL	×()V
カルボプラチン 150mg/15mL カルボプラチン 50mg/5mL	×()V
生食 250mL	× 1B
(持続点滴側管:1時間) 5)生食 50mL	× 1B
(持続点滴側管:全開で フラッシュ用)	
Ⅲ. 化学療法剤投与量算出	7 /# + 188 \
	<備考欄>・本レジメンは原則最大8コース
身長(cm) 体重(h表面積(m ²)	Kg) ペメトレキセド: ペメトレキセド: ペメトレキセド投与1週間以上前より①パンビタン末1g連 内服。②メチコバール注2Aを9週毎に投与。
PEM(ペメトレキセド)投与量(
= 500mg/m ² ×体表面積(m ²)	²) × (%)
CBDCA(カルボプラチン) 投与量(= [CCr()+25] × AUC6 >	mg/body) ×(%)
	主治医 薬剤師 薬剤師
	<u> </u>
	開始前日10:30までに薬局へ提出してくださ
23. 7 薬局 改訂	

病棟・外来

化学療法ワークシート <CBDCA+PTX+Bevacizumab+Atezolizumab療法>

第	コース

I. 基本情報	
患者ID	@PATIENTID
生年月日	@PATIENTBIRTH3
患者氏名	@PATIENTNAME

〈疾患名〉 □非小細胞肺がん(非扁平上皮がん) □あり □なし

@PATIENTSEXN

@PATIENTAGEFORMATTED

〈前コースの化学療法開始日〉 年 月 日 〈前コースの投与量〉 パクリタキセル カルボプラチン べバシズマブ テセントリク mg mg mg mg mg

第1日目

Ⅱ. 化学療法実施過程

告知

性別

年齢

*投与日当日のチェック事項 (記載のない場合はDr. に確認を行った後、薬局3689に連絡する)

	薬剤名	規格	数量	
1)	生食 (持続点滴メイン: ルート確保	100mL 呆用)		× 1B
2)	デキサート注	3.3mg/1mL		× 6A
	ファモチジン注	20 mg/20 mL		× 1A
	生食 (持続点滴側管:5分)	50mL		X1B
3)	レスタミンコーワ錠 (内服:パクリタキセル開始:	10mg/錠 30分前に服用)		X5錠
4)	グラニセトロン点滴バック (持続点滴側管:0.5時間)	3mg/100mL		X1B
5)	パクリタキセル注	100mg/16.7mL	×()V
	パクリタキセル注	30mg/5mL	×()V
	生食 (持続点滴側管:3時間)	500mL		× 1B
6)	カルボプラチン注	450mg/45mL	×()V
	カルボプラチン注	150mg/15mL	×()V
	カルボプラチン注	50mg/5mL	×()V
	生食 (持続点滴側管:1時間)	250mL		× 1B
7)	ベバシズマブBS	400mg/16mL	×()V
	ベバシズマブBS	100mg/4mL	×()V
	生食 (持続点滴側管:1.5時間)	100mL	X1B(生理食塩液に添加し	ノて約100mL)
8)	テセントリク注	1200mg/20mL	×()V
	生食 (持続点滴側管:1時間)	250mL		× 1B
9)	生食 (持続点滴側管:全開で フ	50mL ラッシュ用)		× 1B

必要量を注射筒で抜き 取り、日局生理食塩液 に添加して約100mLと する。

Ⅲ. 化学療法剤投与量算出

< PTX · CBDCA · Bevacizumab · Atezolizumab投与量 > □前コースと投与量同じ(2コース目以降のみ) 体重(身長(cm) Kg) m²) 体表面積(PTX(パクリタキセル)投与量(mg/body) $m^2) \times ($ = 200mg/m²×体表面積(CBDCA(カルボプラチン)投与量(mg/body))+25] × AUC6 × (= [CCr(Bevacizumab(ベバシズマブ)投与量(mg/body) = 15 mg/kg× (Atezolizumab (テセントリク) 投与量(mg/body) = 1200mg/body × (

く備考欄ン

・テセントリク:0.2又は0.22 µ mのインラインフィルターを使用すること。→JMS輸液セット:PVCフリー(品番: JY-PFP341F7)で可(上記条件を満たす)

・本レジメンは原則最大6コース。

·本レジメン終了後、Bevacizumab+Atezolizumab療法へ移行する。

・ヘ・ハ・シス・マブは初回投与の忍容性が良好であれば、2回目の投与は60分間で行っても良い。2回目の投与においても忍容性が良好であれば、それ以降の投与は30分間投与とすることができる。・テセントリクは初回投与の忍容性が良好であれば、2回目以降の投与は30分間とすることができる。

主治医

薬剤師

薬剤師

* Dr. が二重線の枠内を記入して 開始前日10:30までに薬局へ提出してください。

	シート <cbdca-< th=""><th>+PTX+Bevacizumab療法> <u>[第 コース</u></th></cbdca-<>	+PTX+Bevacizumab療法> <u>[第 コース</u>
I. 基本情報		
患者ID @PATIENTID 生年月日 @PATIENTBIRTH3	CBDCA+PIX	+Bevacizumab療法プロトコール(every 3 weeks) day1・・・・・・day22
患者氏名 @PATIENTNAME	IPTX(パクリタキセ	
性別 @PATIENTSEXN	CBDCA(カルボブ Beyacizumah (ベ	^パ ラチン) AUC6 ↓ in→ バシズマブ)15mg/kg ↓
年齢 @PATIENTAGEFORMATTED	, ,	
〈疾患名〉	(前コースの化学)	唐 法開始日〉 年 月 日
□非小細胞肺がん	(前コースの投与量)	
<u></u> 告 知 □あり □なし	パクリタキセル	カルボプラチン ベバシズマブ
<u>□ 日 知 □ □ め) □ ふ □</u> 3 □ 3 □ 3 □ 3 □ 3 □ 3 □ 3 □ 3 □ 3 □	<u> </u>	g mg mg
*投与日当日のチェック事項(記載のない場合はDr. に確	認を行った後、薬局368	89に連絡する)
		第1日目
薬剤名 規格	数量	
1) ソルデム3A 500mL	X1B	
(持続点滴メイン:6時間)	7.1.2	
2) デキサート注 3.3mg/1mL	×6A	
ファモチジン注 20mg/20mL	× 1A	
生食 50mL (持続点滴側管:5分)	X1B	
(対称に、向例目: 3カ) 3) レスタミンコーワ錠 10mg/錠	X5錠	
(内服:パクリタキセル開始30分前に服用)	人3 延	
4) グラニセトロン点滴バック 3mg/100mL (持続点滴側管:0.5時間)	X1B	
5) パクリタキセル注 100mg/16.7mL	×()V	
パクリタキセル注 30mg/5mL	×()V	
生食 500mL (快速点流侧管, 2時間)	× 1B	
(持続点滴側管:3時間) 6)カルボプラチン注 450mg/45mL	×/ \\	
6) カルボプラチン注	×()V ×()V	
カルボプラチン注 50mg/5mL	×()V	
生食 250mL	× 1B	必要量を注射筒で
(持続点滴側管:1時間)		抜き取り、日局生
7) ベバシズマブBS 400mg/16mL	×()V	理食塩液に添加し / て約100mLとする。
ベバシズマブBS 100mg/4mL 生食 100mL x1B(生理	× ()V 食塩液に添加して約100mL)	
(持続点滴側管:1.5時間)	:及塩水に添加して利TOOML/	
8) 生食 50mL	× 1B	
(持続点滴側管:全開で フラッシュ用)		
Ⅲ. 化学療法剤投与量算出 < PTX・CBDCA・Bevacizumab 投与:		
□ 前コースと投与量同じ(2コース目以降のみ)	里 /	・本レジメンは原則最大8コース
身長(cm) 体重(Kg)	・パクリタキセル用点滴セットを使用・7)は初回投与の忍容性が良好であれば、2回目の投与は
体表面積(m ²)		60分間で行っても良い。2回目の投与においても忍容性が
PTX(パクリタキセル)投与量(= 200mg/m ² ×体表面積(m ²	mg/body)	良好であれば、それ以降の投与は30分間投与とすることができる。
	mg/body)	
$= [CCr()+25] \times \overline{AUC6}$	× (%)	
Bevacizumab(ベバシズマブ) 投与量 (主治医薬剤師薬剤師
= 15mg/kg	× (%)	
		* Dr. が二重線の枠内を記入して 開始前日10:30までに薬局へ提出してください。

病棟・外来 化学療法ワー	クシート <cbdca< th=""><th>+PTXweekly+RT療法></th><th>第コース</th></cbdca<>	+PTXweekly+RT療法>	第コース
	_ 		
患者ID @PATIENTID	CBDCA+PTX	weekly+RT療法プロトコール	(every 4 weeks)
生年月日 @PATIENTBIRTH3			8 · · 15 · · · · day29
患者氏名 @PATIENTNAME	PTX(パクリタキセ CBDCA(カルボプ	ル) 50mg/m² ↓ ラチン) AUC2 ↓	↓ ↓ next ↓ ↓ in→
性別 @PATIENTSEXN			ļ
年齢 @PATIENTAGEFORMATTED			
〈疾患名〉	〈前コースの化学療	₹法開始日〉 	年 月 日
□非小細胞肺がん	〈前コースの投与量〉	ナッキラニテン	
告 知 □あり □なし	パクリタキセル mg	カルボプラチン mg	
Ⅱ.化学療法実施過程			
*投与日当日のチェック事項(記載のない場合	はDr. に確認を行っ	た後、薬局3689に連絡する)	
		第1日目 第8日目 第 8日目	第15日目 第15日目
薬剤名 規格	数量		()
1) ソルデム3A 500mL (持続点滴メイン: 3時間)	X1B		
2) デキサート注 3.3mg/1mL	× 6A		
ファモチジン注 20mg/20mL	× 1A		
生食 50mL 50mL 50mL	X1B		
3) レスタミンコーワ錠 10mg/錠 (内服:パクリタキセル開始30分前に服用)	X5錠		
4) グラニセトロン点滴バック 3mg/100mL (持続点滴側管:0.5時間)	X1B		
5) パクリタキセル注 100mg/16.7mL	×()V		
パクリタキセル注 30mg/5mL	×()V		
生食 250mL	× 1B		
(持続点滴側管:1時間)			
6) カルボプラチン注 450mg/45mL カルボプラチン注 150mg/15mL	×()V ×()V		
カルボプラチン注 150mg/15mL カルボプラチン注 50mg/5mL	×()V		
生食 250mL	× 1B		
(持続点滴側管:1時間)			
< PTX·CBDCA投与量 >		<備考欄>	
┃ □前コースと投与量同じ(2コース目以降のみ)		- 放射線療法と併用	
身長(cm) 体重(Kg)	 ・本レジメンは原則最大4コ-	ース
体表面積(m²)		14.0000 100/0000 14XVV 14	
PTX(パクリタキセル)投与量(・パクリタキセル用点滴セッ	トを使用
= 50mg/m ² ×体表面積(m ²			
	mg/body)		
= [CCr()+25] × AUC2 :	× (%)		
		主治医薬剤師	斯 薬剤師
		<u> </u> * Dr. が二重線の枠内を記入して	
		開始前日10:30までに薬局へ提	ー 出してください。

<i>₩</i> ₩	
主	7-4

病棟·外来	ዾ療法ワークシ−	- ト <cb< th=""><th>DCA+PTX療法</th><th>\$></th><th>第</th><th>コース</th></cb<>	DCA+PTX療法	\$ >	第	コース
患者ID @PATIENTID	<u></u>	CBD	CA+PTX プロトコ			
生年月日 @PATIENTBIRTI		-115+ Lu) 000 / 2	day1••••	••• day 22	
│ 患者氏名		フリタキセル カルボプラ ・		Ì	next in↓	
性別 @PATIENTSEX 年齢 @PATIENTAGEFORM	N I			· 		
〈疾患名〉				<u> </u>		
□ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □		の投与量〉	(NI) H / / /	, –		
			カルボプラチン			
告知 □あり □なし		mg	mg			
Ⅱ. 化学療法実施過程	th - / ID A					
<u>* 投与日当日のチェック事項 (記</u> 	<u>載のない場合はDr.</u>	に確認を行	「つた後、楽局3689 	別に連絡する)	
			第1日目			
人 薬剤名 規格 規格	数量		<u></u>			
 1) レスタミンコーワ錠		5錠				
		V 1D				
2) 生食 100mL (メイン:持続点滴:ルート確保月		× 1B				
3) デキサート 3.3mg/1mL		X6A				
ファモチジン 20mg/20mL		X1A				
がラニセトロン点滴バッグ 3mg/100mL (側管:持続点滴:0.5時間)		X1B				
		\				
4) パクリタキセル 100mg/16.7mL パクリタキセル 30mg/5mL)V)V				
生食 500mL		X1B				
(側管:持続点滴:3時間)						
 5) カルボプラチン 450mg/45mL	×()v [
カルボプラチン 150mg/15mL	×()V				
│ カルボプラチン 50mg/5mL 生食 250mL)V X1B				
生良		AID				
		V 1D				
6) 生食		× 1B				
Ⅲ. 化学療法剤投与量算出						
			 <備考欄>			
□前コースと投与量同じ(2コース			パクリタキセル用	点滴セットを	·使用	
	k重 (Kg)				
	· — ·	0/				
PTX(パクリタキセル)投与量	mg/b	ody)				
	$\frac{1}{m^2}$ × (%)				
CBDCA(カルボプラチン)投与量(mg/b	· L				
ひししへ(ガルハノノノン) 技子里(IIIg/D	ouy)	- 1/ F	***		#: +u 4T

= $[CCr()+25] \times AUC6 \times ($ %)

<備考欄>
・パクリタキセル用点滴セットを使用

主治医	薬剤師	薬剤師

* Dr. が二重線の枠内を記入して 開始前日10:30までに薬局へ提出してください。

<u>病棟・外来</u> 化学療法ワ	リークシートく (CBDCA+TS-1缗	法	第	コース
I. 基本情報			·		
患者ID @PATIENTID	CBE	DCA+TS−1療法プロ	コール(ever	y 3 weeks)
生年月日 @PATIENTBIRTH3	CBDCV(#111.#	プラチン)AUC5	day1••••	•• 14 •••	
患者氏名 @PATIENTNAME	CBDCA()))V/N	JJJJ) AUGS	V		next in→
		ン)40~60mg/回	←		
性別 @PATIENTSEXN	分2	朝・夕食後で内服			
年齢 @PATIENTAGEFORMATTED					
〈疾患名〉	(前コースの化学	ዾ療法開始日〉	年	月	日
□非小細胞肺がん	〈前コースの投与				
# #n		ノ ティーエスワン -			
<u>告知□あり</u> □なし	<u> </u>	ng mg			
Ⅱ. 化学療法実施過程	人はり にかます	年 - 4 後 英巳00001	-) 古 42 - ナフ \		
* 投与日当日のチェック事項 (記載のない場)	言はDr. に確認を	们つに俊、楽局3089[- 	- 建給 9 句)		
		第1日目			
薬剤名規格	数量	()			
1) ソルデム3A 200mL	X1B				
(持続点滴メイン:ルート確保用)					
2) デキサート注 3.3mg/mL	X2A				
グラニセトロン点滴バック 3mg/100mL	X1B				
(持続点滴側管:0.5時間)					
3) カルボプラチン注 450mg/45mL	×()V				
カルボプラチン注 150mg/15mL	×()V				
カルボプラチン注 50mg/5mL	×()V				
生食 250mL	X1B				
(持続点滴側管:1時間)					
4) 生食 50mL	X1B				
(持続点滴側管:全開で フラッシュ用)					
ティーエスワン 20mg X(錠)/日	•		 1	
or ティーエスワン 25mg X(♪2 朝・夕食後で内服	₩)		
	~第14日(~	^)まで投薬		
	~第14日(~第21日(~)まで休薬		
	372111		7 0 4 6 11 2 10		
Ⅲ. 化学療法剤投与量算出 < CBDCA •TS-1 投与量>		【<備考欄>			
<u> </u>		・ 本レジメンは原見	訓最大8コース	ζ	
身長(cm) 体重(Kg)		11-12-1		
体表面積(m ²)					
CBDCA(カルボプラチン) 投与量(mg/body)				
, 203, 1000	× (%)				
TS-1(ティーエスワン) 投与量(mg/body)	<u>→ 55 = 1</u>		- -	\$\forall \delta \cdot \delta \delta \cdot \
~ 1.25m²未満 80mg/da	av	主治医	薬剤館	ф	薬剤師
1.25m ² 以上~1.5m ² 未満 100mg/d	-				
1.5m ² 以上~ 120mg/d	ay	* Dr. が二重線			
(分2 朝・夕	'食後で内服)	開始前日10:30	0までに薬局/	へ提出して	ください。

病棟・外来 化学療法ワ	フークシート <cbdca+vp16+atezolizumab療法> 第 コージ</cbdca+vp16+atezolizumab療法>
I. 基本情報	
患者ID @PATIENTID 生年月日 @PATIENTBIRTH3	CBDCA+VP16+Atezolizumab療法プロトコール(every 3 weeks) day1・2・3・・・・・・day22
患者氏名 @PATIENTNAM	MF VP16(ベプシド)。 100mg/m² ↓ ↓ ↓ next
性別 @PATIENTSEXN	*ID CBDCA(カルボプラチン) AUC5 ↓ in→ in→ Atezolizumab(テセントリク)1200mg/body ↓
年齡 @PATIENTAGEFORMA	TTED .
〈疾患名〉	(前コースの化学療法開始日) 年 月 日
□ 小細胞肺がん	(前コースの投与量)
告 知 □あり □なし	ベプシド カルボプラチン テセントリク mg mg mg
Ⅱ.化学療法実施過程	
<u>* 投与日当日のチェック事項 (記載のなし</u>	<u>ハ場合はDr. に確認を行った後、薬局3689に連絡する)</u>
薬剤名 規格	第1日目 第2日目 第3日目 数量
条削石	
(持続点滴メイン:ルート確保用)	X1B
2) デキサート注3.3mg/1mLグラニセトロン点滴バック3mg/100mL	× 2A × 1B
(持続点滴側管:0.5時間)	
3) ベプシド 100mg/5mL 5%ブドウ糖 500mL	×()V
(持続点滴側管:1時間)	
4) カルボプラチン 450mg/45mL カルボプラチン 150mg/15mL	×()V ×()V
カルボプラチン 50mg/5mL	$\hat{\mathbf{x}}$ () \mathbf{v}
生食 250mL (持続点滴側管:1時間)	× 1B
5) テセントリク 1200mg/20mL	×()v
生食 250mL (持続点滴側管:1時間)	X1B
(分	× 1B
(持続点滴側管:全開で フラッシュ用)	
Ⅲ. 化学療法剤投与量算出	
< VP16・CBDCA・Atezolizumal	***・***
│ □前コースと投与量同じ(2コース目以降(│	しんプンド・DEHPフリーの専田ルートで投与すること
体表面積(m²)	用すること。
VP16(ベプシド)投与量(= 100mg/m ² ×体表面積(mg/body)
- Toomg/m ~ 体表面積(CBDCA(カルボプラチン)投与量(以降の歩与け30分間とすることができる
= [CCr()+25] × AU	C5 x (%) ・本レジメンは原則4コースまで。本レジメンス終了後、
Atezolizumab(テセントリク)投与量(
=1200mg/bo	
	<u>主治医</u> 薬剤師 薬剤師
	* Dr. が二重線の枠内を記入して

H23. 7 薬局 改訂

2024/7/2

開始前日10:30までに薬局へ提出してください

	病棟・	<u>外来</u> 化学療法ワーク	フシートく	CBDCA-	+VP16+D	urvalumal	o寮法> _	第	コース
Ι.	基本情報								
	患者ID 生年月日 (@PATIENTID @PATIENTBIRTH3	CBDC	CA+VP1	6+Durvalum	ab療法プロ	コトコール(e [.] day1・2・3・		
	患者氏名 @F	PATIENTNAME	Durvalu		フィンジ) 150		1		next
	性別	@PATIENTSEXN	CRDCA		6(ベプシド) プラチン)		† † †		in→
		IENTAGEFORMATTEL	1 2			<u>.</u>	· 		
	 〈疾	 患名〉	(前コー	スの化学	療法開始日	>	年	J	1 日
	□ 小細胞肺症	がん	(前コー	スの投与	-量〉				
告	知 □あり □な	; L	イミ	フィンジ m	ベプ g	シド mg	カルボプラチ	ン mg	
	化学療法実施過程								
		事項 (記載のない場合	合はDr. に	確認を行っ	った後、薬局	3689に連絡	<u>絡する)</u>		
<u> </u>					<u> </u> 第1日目	<u>L</u> 第2日	」 <u> </u> 目 第3月	目	
	 薬剤名	 規格	数量			(
1)	ソルデム3A	200mL	<i></i>	X1B					
	(持続点滴メイン:ルート								
2)	イミフィンジ 生食	500mg/10mL 250mL	×()V X1B		イミフィ	ンジの初回割	3年の	忍突性が良
	工及 (持続点滴側管:1時間)	2301112		XID.			れば、2回目		
3)	生食(持続点滴側管:1時間)	50mL		× 1B		人 投与時	計間を30分間(こ短縮	できる。
4)	イメンドカプセル (内服:day1はカルボプラ	チン開始1~1.5時間前に投-	与)	× 1セット	125mg	80mg	g 80r	ng	
5)	デキサート注	3.3 mg/1 mL		×1A					
	パロノセトロン点滴バック (持続点滴側管:0.5時間)	_		× 1B					
5)	デキサート注 生食	3.3mg/1mL 100mL		× 1A × 1B					
	工及 (持続点滴側管:0.5時間)			× 10					
6)	ベプシド	100mg/5mL	×()V					
	5%ブドウ糖 (持続点滴側管:1時間)	500mL		X1B					
7)	カルボプラチン	450mg/45mL	×()V					
	カルボプラチン	150mg/15mL	×()V					
	カルボプラチン 生食	50mg/5mL 250mL	×()V ×1B					
	(持続点滴側管:1時間)								
8)	生食 (持続点滴側管:全開で	50mL フラッシュ用)		× 1B					
Ш.	化学療法剤投与量算				∠ /#.+√188 ·				
-		<u> BDCA • Durvalumab投与</u> じ(2コース目以降のみ			く備考欄〕 輸液ライン:	<i>></i>			
	削コースと放子里向 身長(C(2コーヘ日以降のの) cm) 体重()	Kg)			「用ルートで投与 [・] μ mインラインフィ		ポリエーテル
	体表面積(m^2)		1.0,	スルホン製)を	を使用すること	0		
	Durvalumab(イミフ	ソインジ)投与量(mg.	/body)	・インフュージ	ションリアクショ	ーで可(上記条件ンを起こした場合	、次回=	コースよりタリオ
		=1500mg/body		%)	ン錠10mg×1 ~1時間前に	錠、カロナール 内服する。	レ錠200mg×3錠	をイミフィ	インジ投与30分
	CBDCA(カルボプラ	チン)投与量(mg.	/body)			をのない進展型小	細胞肺	癌症例に用い
	= [CCr()+25]×AUC5∼6	× (%)	本レジメント	は最大4コース		14 仁十	7
	VP16(べつ	プシド)投与量(mg.	/body)	・本レジメンに	は、他のイミフィ	umab維持療法へ ′ンジとプラチナ系		
	= $100 \text{mg/m}^2 \times 6$		n^2) × (%)	せて最大4コ・	ースまでとする			
					主治	医	薬剤師		薬剤師
							炒内を記入		

* Dr. が二重線の枠内を記入して 開始前日10:30までに薬局へ提出してください

病棟・外来	ル学療法ワークシート く	CBDCA+VP16療法>	第 コース
I. 基本情報			
患者ID @PATIENTIL		A+VP16療法プロトコール(
生年月日 @PATIENTBIRT	1 VD10(a) = 2 1 1 1	•	y1 · 2 · 3 · · · · · · · day22 ↓ ↓ ↓
患者氏名 @PATIENTN	AIVIC CBDCA(カルオ	ドプラチン) AUC4~6	↓ in→
性別 @PATIENTSE: 年齢 @PATIENTAGEFOR	1 2		
		· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
〈疾患名〉			年 月 日
□ 小細胞肺がん	∭⟨前コースの投	与量〉 カルボプラチン	
<u>告知</u> □あり□なし		カルホノフナン mg mg	
Ⅲ. 化学療法実施過程	, <u></u>		
*投与日当日のチェック事項(記載の	ない場合はDr. に確認を行	うった後、薬局3689に連絡す	-る)
		第1日目 第2日目	第3日目
薬剤名 規格	数量		
1) ソルデム3A 200m (持続点滴メイン: ルート確保用)	L X1I	3	
2) デキサート注 3.3mg/1m グラニセトロン点滴バック 3mg/100m			
(持続点滴側管:0.5時間)			
3) ベプシド 100mg/5m 5%ブドウ糖 500m (持続点滴側管:1時間)			
4) カルボプラチン 450mg/45m			
カルボプラチン 150mg/15m			
カルボプラチン 50mg/5m 生食 250m	-		
(持続点滴側管:1時間)			
5) 生食 50m (持続点滴側管:全開で フラッシュ		3	
Ⅲ. 化学療法剤投与量算出		_	
< VP16⋅CBDCA投		<備考欄>	カルし なが ヒナフェレ
□前コースと投与量同じ(2コース目以 身長(cm) 体表面積(m ²)		・ベプシド:DEHPフリーの専月 →JMS輸液セット:PVCフリー ・放射線療法と併用する場合	-で可(上記条件を満たす)
VP16(ベプシド)投与量(mg/body)		
= 100mg/m ² ×体表面積(
CBDCA(カルボプラチン)投与量(= [CCr()+25]×AU(
	•	主治医	三
		7/16	X/13H/I
		L L L L L L L L L L L L L L L L L	 内を記入して
			に薬局へ提出してください

		病棟∙外来	化学療法ワ	ーク	シート	<cddp(< th=""><th>(ショート)</th><th>+CPT-1</th><th>1療法></th><th>第</th><th></th><th>コース</th></cddp(<>	(ショート)	+CPT-1	1療法>	第		コース
Ι.	基本情報				·							
	患者ID 生年月日		PATIENTID TENTBIRTH3		CD	DP(ショー	·F)+CPT	-11療法プ	ロトコール(dav1・・			
	患者氏名		IENTNAME	<u> </u>		11(イリノラ		60mg/r	n² ↓	Ĭ	1	next
	性別		TIENTSEXN		CDI	DP(シスプ	ラチン)	60mg/r	n' ↓			in→
	年齢	@PATIENT	AGEFORMATTI	ED	 							
	_	〈疾患名	>			スの化学		计日〉		年	月	日
	□小細	間胞肺がん				-スの投与 ノテカン		,				
告	知 □あり	□なし			19	フテカン m		、プラチン mg				
Π.	化学療法実施	 拖過程										
* ‡	<u> </u>	チェック事項	(記載のない場	合は	tDr. (C	確認を行っ	った後、薬 「	ミ局3689に;	<u>連絡する)</u> ┃			¬ —
							<u>———</u>			400	₩ 0.□	
	 薬剤 [:]	 名	 規格		数量		第1日目	第2日目	第3日目 第	4日目	第8日	<u>第15日</u>
1)	ソルデム3A		200mL		—	X1B		ا انسسار	<u></u>			
2)	(持続点滴メイン: パロノセトロン点)		0.75mg/50mL			× 1B						
-′	デキサート注 (持続点滴側管:0		3.3mg/1mL			×3A						
2)	デキサート注		3.3mg/1mL			×2A						
	グラニセトロン点流 (持続点滴側管:0		3mg/100mL			X1B						
3)	イリノテカン イリノテカン		100mg/5mL 40mg/2mL		×(×()V)V						7
	生食 (持続点滴側管:1	1.5時間)	500mL			X1B						
4)	イメンドカプセル					× 1セット	125mg	80mg	80mg			_
5)	(内服:day1はシス デカドロン錠	スプラチン投与の1	~1.5時間前に服用) 0.5mg/錠			×16錠/日	TZJIIIg	Oomg	oonig			
	(内服:1日2回 朝	用・昼食後)	_									
6)	硫酸Mg補正液 アスパラカリウム	注	20mEq/20mL 10mEq/10mL			× 0.4A × 1A						
	ソルデム1 (持続点滴側管:1	時間)	500mL			× 1B						
7)	マンニットールS注(持続点滴側管:0		300mL			200mL						
8)	シスプラチン注	J.O마하[B] /	50mg/100mL		×()V						
	シスプラチン注 シスプラチン注		25mg/50mL 10mg/20mL		×(×()V)V						
	生食 (持続点滴側管:1	時間)	500mL			300mL						
9)	アスパラカリウム: ソルデム1		10mEq/10mL 500mL			× 1A × 1B						
	(持続点滴側管:1	時間)	OUUML			× 18						
10)	生食 (持続点滴側管::	全開で フラッシュ	50mL 用)			X1B						
Ⅲ.	化学療法剤投与	量算出										
_] ±5 → L+D		-CDDP投与量	>			く備者 •day1c	予欄> ~3は1000m	の飲水を行	<u> </u>		
	」 削コースと投 身長(ース目以降のみ) cm) 体重(Kg)	イリノラ	⁻カン:				/\ a A
	体表面積(m ²)				間)、メ	対策として柴 トクロプラミド	錠(3錠/日	、分3)	、ウルソ	/デオキ
		11(イリノテカン mg/m²×体表i		m ²) :		/body) %)	シコー	ル酸錠(3錠, 4に行う。				
		「㎏/ 「「 へ 体収」 P(シスプラチン		, ,	•	/body)	uayı	11-11-70				
		mg/m²×体表i		m ²) :		%)	直	治医	薬剤師	<u> </u>	薬	剤師
								ーーーー が二重線の格 ☆前口10:20==			ノナジナハ	
23.7 薬局	改訂						開始	前日10:30まで	こに栄向へ提	山してく	いころい。	

	病棟・外来 化学	療法ワークシ		P(ショート)+PEM+Bevaciz	umab療法>	第	コース
I. 基本情報			- <i></i>				_,_,	
患者ID 生年月日	@PATIE @PATIEN1		CDDP(S	ンョート)+P	EM+Bevacizumab <u>报</u>	<u>§法プロトコール</u> •••••		weeks) day22
上	@PATIEN			外レキセド		↓ ↓		next
性別	@PATIEN			ノスプラチン Jmah (ベバ	ノ) 75mg/m² バシズマブ)15mg/k	γσ. 		in→
年齢	@PATIENTAGE		1 7			's		
	〈疾患名〉		11 11	-スの化学療	法開始日〉	年	月	日
	細胞肺がん			の投与量〉 ·レキセド	シスプラチン	ベバシズマ	ブ	
告知 □あり	<u> </u>			mg	mg		mg	
Ⅱ. 化学療法実施過 * 投与日当日のチェ	程 ック事項 (記載のなり	N場合はDr.に紹	筆認を行った後	後、薬局3689I	に連絡する)			
<u> </u>	>> 1. >< (HP-#44.0)	уд 10-2-11-1		<u> </u>				
		L	No. CO.		第1日目	第2日目 第	第3日目	第4日目
薬剤	名 規構		数量	V4D				()
1) ソルデム3A (持続点滴メイン:	:ルート確保用)	200mL		X1B				
2) パロノセトロン点 デキサート注		g/50mL ng/1mL		× 1B × 3A				
(持続点滴側管	:0.5時間)		_			必要量を活		
3) ペメトレキセド ペメトレキセド		g/32mL g/20mL	×(×()V)V		き取り、日、液に添加し		塩
ペメトレキセド 生食		ng/4mL 100mL	×()V X1B				J
(持続点滴側管		_						
4) イメンドカプセル (内服:day1はシ	<i>,</i> _′ スプラチン投与の1~	√1.5時間前に服月	用)	× 1セット	125mg	80mg	80mg	
5) デカドロン錠 (内服:1日2回		5mg/錠	×	〈16錠/日				
6) 硫酸Mg補正液 アスパラカリウムシ		q/20mL q/10mL		× 0.4A × 1A				
ソルデム1 (持続点滴側管		500mL		× 1B				
7) マンニットールS (持続点滴側管	注射液	300mL		200mL				
8) シスプラチン注	50mg	/100mL	×()V				
シスプラチン注 シスプラチン注		g/50mL g/20mL	×(×()V)V				
生食 (持続点滴側管		500mL		300mL				
9) アスパラカリウムミ		q/10mL		× 1A				
ソルデム1 (持続点滴側管	:1時間)	500mL		× 1B				
10)生食		50mL		× 1B		/ 必要量を 抜き取り、		ļ.
(持続点凋側官11) ベバシズマブBS	:全開で フラッシュ用 3 400m	<i>)</i> g/16mL	×()V		理食塩液	に添加し	
ベバシズマブBS 生食		ng/4mL 100mL X1B(生理	× ()V		て約100m	Lとする。	
(持続点滴側管	:1.5時間)							
12) 生食 (持続点滴側管	:全開で フラッシュ用	50mL)		×1B				
Ⅲ. 化学療法剤投与		. , дл. — 1			/			
□前コースと投与量	PEM・CDDP・Bevao 量同じ(2コース目以降	のみ)	里 <i>)</i>		<備考欄> ・day1~3は1000mL0			
身長(体表面積(cm m²			Kg)	・ペメトレキセド投与1 内服。②メチコバール			∕末1g連日
PE	EM(ペメトレキセド)投	与量(<u></u>		oody)	・11)は初回投与の忍は60分間で行っても	容性が良好である	れば、2回目	
	00mg/m ² ×体表面積(²) × (%)	が良好であれば、それができる。			
CE = 7	DDP(シスプラチン)投 75mg/m ² ×体表面積(与量($\frac{\text{mg/b}}{2} \times ($	oody) %)	・本レジメンは原則最	大6コース		
	nab(ベバシズマブ)投		mg/b	oody)	主治医	薬剤師	薬	剤師
		= 15mg/kg	× (%)				
					* Dr. が二重線の料 開始前日10:30ま	P内を記入して でに薬局へ提出し	てください。)
23.7 薬局 改訂								

	病棟∙外来	化学療法ワーク	クシートく	(CDDP(シ	/3—F)+VI	NB + RT纲	§法>	第	コース
Ι.	基本情報								
	· — · —	ATIENTID TENTBIRTH3	CDD	P(ショート)	+VNB+RT	療法プロ			weeks) •••day29
		IENTNAME		コゼウス) シスプラチ:	20mg	g/m² g/m²	1		next in→
	.—	TIENTSEXN		/ / /////	<i>)</i> 60111	g/ III	V		"" 1
		AGEFORMATTED			= 				
	〈疾患名〕 □非小細胞肺がん	>		スの化字派 スの投与	療法開始日〉 量〉		年	F F	日
告	知 □あり □なし			ゼウス mg	シスプラ	ラチン mg			
	化学療法実施過程	/言thのたい.旧人	/ 	m====+	. 44 英日。	0001->=#			
* 3	<u> </u>	(記載のない場合	はDr. に	催認を行つ	た後、楽局3	689に連絡	計する)		1
<u> </u>						第2日目	第3日目	第4日目	」 <u>L</u> 第8日目
	薬剤名	規格	数量			()	()	()	
1)	生食 (持続点滴メイン:用法は 備考参照	250mL 1)		X1B					
2)	パロノセトロン点滴バッグ デキサート注 (持続点滴側管:0.5時間)	0.75mg/50mL 3.3mg/1mL		× 1B × 3A					
3)	ロゼウス	40mg/4mL	×()V					
	ロゼウス 生食 (持続点滴側管:5分)	10mg/1mL 50mL	×()V X1B					
4)	イメンドカプセル (内服:day1はシスプラチン投与	の1~1.5時間前に服用	3)	× 1セット	125mg	80mg	80mg		
5)	デカドロン錠 (内服:1日2回 朝・昼食後)	0.5mg/錠		×16錠/日					
6)		20mEq/20mL 10mEq/10mL		× 0.4A × 1A					
	ソルデム1 (持続点滴側管:1時間)	500mL		× 1B					
7)	マンニットールS注射液 (持続点滴側管:0.5時間)	300mL		200mL					
8)	シスプラチン注 シスプラチン注	50mg/100mL 25mg/50mL	×(×()V)V					
	シスプラチン注	10mg/20mL	×()V					
	生食 (持続点滴側管:1時間)	500mL		300mL					
9)	アスパラカリウム注 ソルデム1	10mEq/10mL 500mL		× 1A × 1B					
	(持続点滴側管:1時間)	OOGINE		× 15					
Ш.	化学療法剤投与量算出 < VNB•0	CDDP 投与量 >			<備考欄)	>			
	 前コースと投与量同じ(2コー				1)はルート品	催保出来たら		侧管開始	à。側管終了
	身長(体表面積(cm) 体重(m²)		Kg)	後、残液を全 ロゼウス:流 短時間で投与	速遅延により		き現リスク	高まるため、
	VNB(ロゼウス	、)投与量(/body)	放射線療法本レジメンに	と併用	コース		
	= 20mg/m ² ×体表i	面積(m² 小投与量() × (%) /body)	•day1~3は1				
	CDDP(シスノフテン = 80mg/m ² ×体表[mg,	/ body) %)	主治日	Ę	薬剤師		薬剤師
					* Dr. が二! 開始前日		を記入して 薬局へ提出	してくださ	い。

3	病棟・外来 化学療	法ワークシート・	<cddp(ショ< th=""><th>ョート)+VNB療</th><th>法></th><th>第コース</th></cddp(ショ<>	ョート)+VNB療	法>	第コース
I. 基本情報						
患者ID 生年月日	@PATIENTID @PATIENTBIRTH3	CDI	<u> </u>	-VNB療法プロト	コール(every dav1・・8・・	
患者氏名	@PATIENTNAM	IE VNB(D1		25mg/m^2	↓ ↓ ↓	next
性別	@PATIENTSEXN	CDDP(\$)	スプラチン)	80mg/m ²	1	in→ ¦
年齢	@PATIENTAGEFORMAT	TED				
	〈疾患名〉	「前コース	の化学療法	開始日〉	年	月 日
□非小細	田胞肺がん	11 11	の投与量〉	シュポニエン		
 告 知 □あり	□なし		ウス mg	シスプラチン mg		
Ⅱ.化学療法実施证	=====================================		-			
	ェック事項 (記載のない	場合はDr. に確	認を行った後	:、薬局3689に連	絡する)	
薬剤名		数量		第2日目 第2日目 (1)	第3日目 第	第4日目 第8日目 17
		<u> </u>	V1D			
1) 生食 (持続点滴メイン:用	250mL 引法は 備考参照)		X1B			
2) パロノセトロン点滴	_		× 1B			
デキサート注 (持続点滴側管:0.	3.3mg/1mL .5時間)		× 3A			
3) ロゼウス	40mg/4mL	×()V			
ロゼウス 生食	10mg/1mL 50mL	x ()V X1B			
(持続点滴側管:5:	分)		_			
4) イメンドカプセル (内服:day1はシス	、プラチン投与の1~1.5時間前		<1セット 1	25mg 80mg	80mg	
5) デカドロン錠 (内服:1日2回 朝	0.5mg/錠 •昼食後)	×	16錠/日			
6) 硫酸Mg補正液 アスパラカリウム注	20mEq/20mL 10mEq/10mL		× 0.4A × 1A			
ソルデム1	500mL		× 1B			
(持続点滴側管:117) マンニットールS注			200mL			
(持続点滴側管:0.			ZUUML			
8) シスプラチン注 シスプラチン注	50mg/100mL 25mg/50mL	×(×()V)V			
シスプラチン注	25mg/50mL 10mg/20mL	×()V			
生食 (持続点滴側管:11	500mL 時間)		300mL			
9) アスパラカリウム注	10mEq/10mL		× 1A			
ソルデム1 (持続点滴側管:11	500mL 時間)		× 1B			
Ⅲ. 化学療法剤投-						
二:10] 派及////ス		<u>t</u> >		備考欄>	S	
│ □前コースと投与量 身長(量同じ(2コース目以降のみ) cm) 体重		, 、 後、	はルート確保出来た . 残液を全開でフラッ	シュ。	
体表面積(m ²)	≝ (- H	ヹウス∶流速遅延によ 時間で投与する。	にり血管痛の発現	IJスク高まるため、
	NB(ロゼウス)投与量(mg/b	ody) ·本	レジメンは原則最大 ay1~3は1000mLの負		
_	:/m ² ×体表面積(こコプニスンとにも見/	m ²) × (%)	.5		
	シスプラチン)投与量(_{:/m²×体表面積(}	m^2 × (ody) %)	主治医	薬剤師	薬剤師
Jonnes.	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	/			SISTING!	N/V/13H-L
				 Dr. が二重線の枠巾	 内を記入して	
				開始前日10:30まで		てください。

	<u></u>	· <u>外来</u> 化字療法リーク:	ンートくび	DP(ショー	F)+VP16+	Durvalur	nab獠法 <i>></i> [_	第	コース
Ι.	基本情報								
	患者ID	@PATIENTID	CDDP(ショート)+、	VP16+Durval	umab療法	デロトコール		
	生年月日	@PATIENTBIRTH3	1		. "		day1 • 2 • 3 •	• • • • •	· •day22
	患者氏名 @	PATIENTNAME			ンシ゛) 1500m		+		next
	•		1 2	ベプシド)	100mg/		1 1 1		in→
	性別	@PATIENTSEXN	1 4	シスプラチ	ン) 80m	ng/m²	Ţ		
	年齢 @PA	TIENTAGEFORMATTE	_ <u>'</u>						
	< 兆	長患名>	(前コー	-スの化学症	療法開始日〉		年	月	日
	□小細胞肺が	ぶん(進展型)	11 11	-スの投与			_		
			イミ	シィンジ	ベプシ	ンド	シスプラチ	ン	
告	<u>知</u> □あり□□	<u>なし</u>		mg	· ·	mg		mg	
Π.	化学療法実施過程								
* 投	与日当日のチェック事項	〔(記載のない場合はDr. に	確認を行った	後、薬局3689	に連絡する)				
					第1日目	】 第2日	[ᆛᆫ	第4日目
	 薬剤名	 規格	数量		()	75 2 □	<u>」</u>	- 7	7
1)	来 月 1 つ ソルデム3A	ኦπ1 ¤ 200mL	<u> </u>	X1B	,)				
')	プルテム3A (持続点滴メイン:ルート確			VIB					
2)	イミフィンジ	500mg/10mL	×()V					
	生食(快结点流侧筒、1時間)	250mL		X1B					
3)	(持続点滴側管:1時間) 生食	50mL		× 1B		1/2	7ィンジの初回	少与の	忍容性が良
3)	工及 (持続点滴側管:1時間)	JUIIL		^ IB		I <	あれば、2回目		
4)	パロノセトロン点滴バッグ	0.75mg/50mL		×1B			時間を30分間		
	デキサート注 (持続点滴側管:0.5時間)	3.3 mg/1 mL		×3A		ئے ا	J C - 270 IPJ	. —	
4)	(持続点周側官:0.5時间)	3.3mg/1mL		×2A					
47	生食	100mL		X1B					
	(持続点滴側管:0.5時間)								
5)	ベプシド注 5%ブドウ糖	100mg/5mL 500mL	×()V X1B					
	(持続点滴側管:1時間)	SOUTHL		A1D					
6)	イメンドカプセル			× 1セット	125mg	80m	g 80mg		
		投与の1~1.5時間前に服用)			IZJIIIg	8011	B OOIII	<u>.</u>	
7)	デカドロン錠 (内服:1日2回 朝・昼食後	0.5mg/錠)		×16錠/日					
8)	硫酸Mg補正液	20mEq/20mL		× 0.4A		, —			
	アスパラカリウム注	10 mEq/10 mL		×1A					
	ソルデム1 (持続点滴側管:1時間)	500mL		× 1B					
9)	マンニットールS注射液	300mL		200mL		i			
	(持続点滴側管:0.5時間)			2002					
10)	シスプラチン注	50mg/100mL	×()V		1			
	シスプラチン注 シスプラチン注	25mg/50mL 10mg/20mL	×(×()V)V					
	生食	500mL	~ (300mL					
	(持続点滴側管:1時間)					ļ			
11)	アスパラカリウム注 ソルデム1	10mEq/10mL 500mL		× 1A × 1B					
	ブルテムト (持続点滴側管:1時間)	JOUITL		^ IB					
12)	生食	50mL		×1B					
	(持続点滴側管:全開で フ	プラッシュ用)							
Ⅲ.	化学療法剤投与量算出				، ۱۹۹۱ ملد عدار د				ı
		valumab・VP16・CDDP投与量	>		<備考欄>	ロフリーの事中	ルートで投与するこの	<u> </u>	
	削コー人と投与重同 身長(じ(2コース目以降のみ) cm) 体重(Kg)	→JMS輸液セッ	ト:PVCフリー	で可(上記条件を満た	:す)	
	タ長(体表面積(cm/ 1本里(m ²)		r\g/	・イミフィンジ:・0 製)を使用するこ		mインラインフィルター	-(ボリエー	テルスルホン
		•		/	→JMS輸液セッ	ト:PVCフリー	で可(上記条件を満た を起こした場合、次回		タリオン錠
	Durvalumab(イミ	フィンジ)投与量(g/body)	10mg×1錠、力口		と起こした場合、次位)mg×3錠をイミフィン		
		=1500mg/body	× (%)	内服する。 ・本レジメンは、	化学療法歴の	ない進展型小細胞腫	1癌症例に	こ用いられる。
		ベプシド)投与量(/body)	・day1~3は1000 ・本レジメンは最	0mLの飲水を	行う。		
	$= 100 \text{mg/m}^2$	ベ体表面積(n	$n^2) \times ($	%)			ab維持療法へ移行す	ける。	
	CDDP(シスフ	プラチン)投与量(mg	/body)					
	$= 80 \text{mg/m}^2$		$\frac{1}{n^2}$ × (%)	主治图	E	薬剤師		薬剤師
	238/ 111 -		, ,	·					

	病棟∙外来	化学療法ワーク	クシートく	CDDP(S	ンョート)+VP	16+RT療法)	> 第	コース
Ι.							•	
		ATIENTID	CDD	P(ショート)+VP16+RT	療法プロトコー	-ル(every 4	weeks)
	生年月日 @PAT	IENTBIRTH3	ĺ				-2-3	••day29
	患者氏名 @PAT	IENTNAME		ベプシド) シスプラチ		m^2 \downarrow g/m^2 \downarrow	1 1	next in→
	1	TIENTSEXN	1			,		j
	年齢 @PATIENT	AGEFORMATTED	_ ـ ـ ـ ـ ـ أ ا					i
		>	「前コー	スの化学	療法開始日〉		年 月	1 日
	□小細胞肺がん		II II	-スの投与			<u> </u>	
				ベプシド		チン		
告	知 □あり □なし			mį	g	mg		
	化学療法実施過程							
* 抄	と与日当日のチェック事項 (記載のない場合はD	r. に確認を	<u>- 行った後、</u>	、薬局3689に連	終 <u>する)</u>		
<u> </u>					第1日目	第2日目	第3日目	第4日目
	<u>薬</u> 剤名		数量		()	()	()	(
1)	ソルデム3A	200mL		X1B				
	(持続点滴メイン:ルート確保用)							
2)	パロノセトロン点滴バッグ デキサート注	0.75mg/50mL		×1B				
	テキザート注 (持続点滴側管:0.5時間)	3.3mg/1mL		× 3A				
2)	デキサート注	3.3mg/1mL		×2A				
	生食	100mL		X1B				
2)	(持続点滴側管:0.5時間) ベプシド注	100/5	×()\/				<u> </u>
3)	5%ブドウ糖	100mg/5mL 500mL	X ()V X1B				
	(持続点滴側管:1時間)							
4)	イメンドカプセル			× 1セット	125mg	80mg	80mg	
	(内服:day1はシスプラチン投与の1 デカドロン錠			4065/0	0g			
5)	イストロン証 (内服:1日2回 朝·昼食後)	0.5mg/錠		×16錠/日				
6)	硫酸Mg補正液	20mEq/20mL		× 0.4A				
	アスパラカリウム注 ソルデム1	10mEq/10mL 500mL		×1A ×1B				
	(持続点滴側管:1時間)	JOOITIL		^ 16				
7)	マンニットールS注射液	300mL		200mL				
	(持続点滴側管:0.5時間) -							
8)	シスプラチン注 シスプラチン注	50mg/100mL 25mg/50mL	×(×()V)V				
	シスプラチン注シスプラチン注	25mg/50mL 10mg/20mL	×()V)V				
	生食(持续点流侧筒、1時間)	500mL		300mL				
0)	(持続点滴側管:1時間) アスパラカリウム注	10mEq/10mL		× 1A				
9)	アスハラカリウム注 ソルデム1	500mL		× 1B				
	(持続点滴側管:1時間)							-
10)	生食 (持続点滴側管:全開で フラッシュ	50mL		× 1B				
<u></u>		m)						I
Ⅲ.	化学療法剤投与量算出	·CDDP投与量 >			<備考欄>			
\vdash	<u> </u>					HPフリーの専用ル	ノートで投与する	3 . 2
-	身長(cm) 体重(Kg)		ット:PVCフリーで	可(上記条件を	満たす)
	体表面積(m^2)			放射線療法。・本レジメンは	と併用 原則最大4コース		
	VP16(ベプシド	的投与量(mg	/body)		000mLの飲水を行	う。	
	= 100mg/m²×体表词	面積(m ²	²) × (%)				
	CDDP(シスプラチン	·)投与量(mg	/body)				
	= 80mg/m ² ×体表页		²) × (%)	主治医	薬剤	師	薬剤師
						i線の枠内を記入 0:30までに薬局へ		1.
1					ᆘᄱᄞᄓ	ひひみ いに米何へ	7月117 こくだし	∪ •o

		病棟∙外来	化学療法	ワークシ	·—ŀ	<cddp< th=""><th>(ショ</th><th>−ト)+\</th><th>/P16療</th><th>法></th><th>第</th><th></th><th>コース</th></cddp<>	(ショ	− ト)+\	/P16療	法>	第		コース
Ι.	基本情報								.—s—		. — . — .		
	患者ID 生年月日		ATIENTID IENTBIRTH3	 	CE	DP(ショー	<u>-ト)+</u>	VP16療	法プロト		(every 3 2•3•••		
	患者氏名	@PAT	IENTNAME			ベプシド)	• .)	100mg/ 80mg	m ²	↓	↓ ↓		next
	性別		TIENTSEXN	[]	JP(;	ノスプラチ	ン)	8Umg	g/ m	1			in→¦
	年齢	@PATIENT	AGEFORMATT	ED									
	□ .l. 4m	〈疾患名)	>	11 11		スの化学		開始日〉_			年	月	日
		胞肺がん] —	スの投与: ベプシド		シスプラ	チン				
告	知 □あり	□なし				mg	ğ		mg				
	化学療法実施:		記載のない場合に	はDr に確	認を	行った後、	薬局:	8689に連	絡する)				
	<u> </u>	->> - >> • · · · · · ·		<u> </u>	μю С	17 272 200		1	7 07				
							第	1日目	第2日	1	第3日		第4日目
45	薬剤名	呂	規格	数	量	V45	()	()	((
1)	ソルデム3A (持続点滴メイン:	ルート確保用)	200mL			X1B							
2)	パロノセトロン点流 デキサート注	角バッグ	0.75mg/50mL 3.3mg/1mL			× 1B × 3A							
3)	(持続点滴側管:0 デキサート注).5時間)	3.3mg/1mL			× 2A							
2)	生食	v ∈ r#= 88 /	3.3mg/ mil 100mL			X1B							
3)	(持続点滴側管:0 ベプシド注	J.5吋(町 <i>)</i>	100mg/5mL	×	:()V							
	5%ブドウ糖 (持続点滴側管:1	時間)	500mL			X1B							
4)	イメンドカプセル (内服・day1はシス	スプラチン投与の1	~1.5時間前に服用)			× 1セット	1	25mg	80r	ng	80m;	g	
5)	デカドロン錠 (内服:1日2回 朝		0.5mg/錠			×16錠/日							
6)	硫酸Mg補正液 アスパラカリウム》	^	20mEq/20mL 10mEq/10mL			× 0.4A × 1A							
	ソルデム1 (持続点滴側管:1	_	500mL			×1B							
7)	マンニットールS注(持続点滴側管:0	射液	300mL			200mL							
8)	シスプラチン注		50mg/100mL		:()V							
	シスプラチン注 シスプラチン注		25mg/50mL 10mg/20mL		:()V)V							
	生食 (持続点滴側管:1	時間)	500mL			300mL							
9)	アスパラカリウム》 ソルデム1	主	10mEq/10mL 500mL			×1A ×1B							
10)	(持続点滴側管:1 生食	時間)	50mL			× 1B							
10)	 (持続点滴側管:≤	全開で フラッシュ				×10							
Ⅲ.	化学療法剤投与		·CDDP投与量 >				< l	備考欄>					
			ース目以降のみ)				・ベ	プシド∶DEI MS輸液セ					
	身長(体表面積(cm) 体重(m²)			Kg)	·放	射線療法と	と併用する	場合もは	ある。	十で何ん	29)
	•	VP16(ベプシト	·)投与量(mg/	body)	• da	y1~3は10	JUUMLUJ飲	小を打っ	<i>)</i> 。		
		mg/m²×体表ī		m ²) × (%)							
		P(シスプラチン ng/m²×体表ī	り投与量(^{面積(}	m ²) × (mg/	body) %)		主治医		薬剤	師	遊	剤師
	– our	ng/III へ144衣l	出作	III / ^ (/0/		<u> 고/I/C</u>	` -	木川	Hili		ייים נירע:
							<u>∟</u> * 1	 Dr. が二重	」 L i線の枠内	を記入			
H23. 7 薬	n al ar							開始前日1				ださい。	

病棟・外来 化学療法ワ	ークシートくの	PT−11療法(肺が)	6)>	第	コース
I. 基本情報					
患者ID @PATIENTID	CP.	T-11療法(肺がん)プロト			
生年月日 @PATIENTBIRTH3	ODT 11/2U	<i>γ</i> =± <i>γ</i> .)	day1•••8	••••15•••	••• day29 next
患者氏名 @PATIENTNAME	CPT-11(イリノ	/ テカン) 100mg/m ²	1 1	V	in→
性別 @PATIENTSEXN					
年齢 @PATIENTAGEFORMATTED	 				
〈疾患名〉	(前コースの化学	学療法開始日〉		年 月	日
□ 非小細胞肺がん	│ │ 〈前コースの投 <i>⁴</i>	手量〉			
□ 小細胞肺がん	,,,,=,,				
 告知□あり□なし	イリノテカン -				
		ng			
Ⅱ. 化学療法実施過程 *投与日当日のチェック事項 (記載のない)	、場合はDr に確認	^刄 を行った後 薬局3680	に連絡する	5)	
TI T	<u> </u>	1			
		』	」 L 第15日	퓜	
薬剤名 規格	 数量) ()	
1) ソルデム3A 200mL	× 1B				
(持続点滴メイン:ルート確保用)					
2) デキサート注 3.3mg/1mL	× 2A				
グラニセトロン点滴ハッグ 3mg/100mL	× 1B				
(持続点滴側管:0.5時間) 					
3) イリノテカン 100mg/5mL	×()V				
イリノテカン 40mg/2mL 生食 500mL	×()V ×1B				
(持続点滴側管:1.5時間)	× 10				
 4) 生食	× 1B				
「持続点滴側管:全開で フラッシュ用)	^ IL				
エ ルヴ焼け到机に見答山		-			
Ⅲ. 化学療法剤投与量算出 <cpt-11投与量></cpt-11投与量>		<備考欄>			
□前コースと投与量同じ(2コース目以降の	カみ)	イリノテカン:			
		・下痢対策として柴	苓湯連日、 ☆/0~	重曹(1.8g/	日、分3食
身長(cm) 体重(体表面積(m ²)	Kg)	間)、メトクロプラミド コール酸錠(3錠/日	蜒(3蜒/ロ .分3)の♪	、分3)、ワルス服を必要し	ルソテオ キン こ応じてdav1
	<i>,</i> , , , ,	~4に行う。	()] 0 / 0 / 1	1/II/C 20 X 1	- Cuay i
CPT-11(イリノテカン)投与量(mg/body)				
= 100mg/m ² ×体表面積(m ²) × (%)				
		<u> → ⋈ = </u>	- 12. -5.1-4	_	本 수// 수구
		主治医	薬剤的	ih	薬剤師
		* Dr. が二重線の	枠内を記り	して	

開始前日10:30までに薬局へ提出してください。

病棟·外来 化字漿法リー	-クシートくひし	X+サイフムサ寮法	夕 第 コース
I. 基本情報	,		
患者ID @PATIENTID 生年月日 @PATIENTBIRTH3	DTX+	サイラムザ療法 プロトコ day	Iール(every 3 weeks) /1・・・・・・・・・day22
患者氏名 @PATIENTNAME	RAM(サイラム	ュザ) 10mg/kg ↓	next
	DTX(ワンタキン	$ u$ テール) 60mg/m^2 ↓	in→
性別 @PATIENTSEXN 年齢 @PATIENTAGEFORMATTED			
〈疾患名〉	* <i></i> K前コースの化学療		<u>/_/</u>
□ トラスポーク □ □ ・	〈前コースの投与量		
		ワンタキソテール	
<u>告知</u> □あり □なし	mg	mg	
Ⅱ. 化学療法実施過程* 投与日当日のチェック事項 (記載のない)	場合はDr に確認?	を行った後 薬局3689に過	事終する)
・汉子自当自のグデング学院(記載のから)	<u> </u>	[] 为之及、采用500001年	±ημ γ '0 /
		第1日目	
薬剤名 規格	数量	()	
1) 生食 100mL 100mL	× 1B		
(持続点滴メイン:ルート確保用)	44		
2) レスタミンコーワ錠 10mg (内服:サイラムザ開始30分前に服用)	×5錠		
3) デキサート 3.3mg/1mL	× 4A		
がラニセトロン点滴バッグ 3mg/100mL (持続点滴側管:0.5時間)	× 1B		を要量を注射筒で抜き取 、日局生理食塩液に添
4) サイラムザ 500mg/50mL	×()V		、口尚王珪及塩液にぶ]して約250mLとする。
サイラムザ 100mg/10mL 生食 250mL x1B(生理食	×()V 塩液に添加して約250mL)		
(持続点滴側管:1時間)			
5) 生食 50mL (共结上海侧等 6 周 7 フラッシュ 円)	×1B		
(持続点滴側管:全開で フラッシュ用)	×/ \\		
6) ワンタキソテール 80mg/4mL ワンタキソテール 20mg/1mL	×()V ×()V		
生食 250mL	X1B		
(持続点滴側管:1時間)			
7) 生食 50mL 50mL 50mL 7) 50mL 7) 50mL 7) 50mL 7) 70mL 70mL	× 1B		
(14 前が144日) 日 : 工川1 (フランフェバイ)			
Ⅲ. 化学療法剤投与量算出		<備考欄>	
<ram·dtx投与量> □前コースと投与量同じ(2コース目以降の</ram·dtx投与量>		サイラムザ:	
身長(cm) 体重(Kg)		良好であれば、2回目以降の投
体表面積(m ²)	1.87	与時間は30分間まで短・蛋白質透過型のフィル	は痛じざる。 レター(0.2又は0.22ミクロン)を使用
		する。	
DAM(# /= / #\# E = /	// / /	→JMS輸液セット:PVC 	フリーで可(上記条件を満たす)
RAM(サイラムザ)投与量(10mg/kg ×	mg/body) (%)		
DTX(ワンタキソテール)投与量(mg/body)		
= 60mg/m ² ×体表面積(m ²)	× (%)		
		└────────────────────────────────────	薬剤師 薬剤師
		主治医	<u> </u>
			<u> </u>
		* Dr. が二重線の枠内 開始前日10:30まで	内を記入して に薬局へ提出してください。
.12 薬局改訂		ויון אינוען ביינוען ביינוען ביינוען	一大で 一た田していたい。

病棟·外来 化学療法	ワークシ	- -	DTX療法(肺が	べん)>	第	コース
 I . 基本情報						
患者ID @PATIENTID	, , , , ,	DT	X療法(肺がん)プ			
生年月日 @PATIENTBIRTH3) DTV/	コン・カナン	ソテール) 60mg	day1•••		day22 next
患者氏名 @PATIENTNAME	DIX	ノンダイ	/) — / v) — domg	/ m ↓		in→
性別 @PATIENTSEXN	İ					
年齢 @PATIENTAGEFORMATTED	<u>ـــــا</u>					
〈疾患名〉			療法開始日〉	年	月 日	
□非小細胞肺がん	(前コース					
告知 □あり □なし	ワンタキ	ソテール				
		mg	<u> </u>			
Ⅱ. 化学療法実施過程* 投与日当日のチェック事項 (記載のない)	場合はDr	に確認	を行った後、薬局:	3689に連絡す	ナる)	
<u> </u>	· <u>M</u> [1001.	1-12	2月772区(米海)]]	<i>,</i> • • · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
			第1日目			
薬剤名 規格	数量		(
1) ソルデム3A 200mL		× 1B		Ī		
(持続点滴メイン:ルート確保用)						
2) デキサート 3.3mg/1mL		×4A				
グラニセトロン点滴バッグ 3mg/100mL		× 1B				
(持続点滴側管:0.5時間)						
3) ワンタキソテール 80mg/4mL	×()V				
ワンタキソテール 20mg/1mL 生食 250mL	×()V X1B				
(持続点滴側管:1時間)						
4) 生食 50mL		× 1B				
(持続点滴側管:全開で フラッシュ用)						
Ⅲ. 化学療法剤投与量算出						
<u>ロ・ルチ療法所及チ里昇山</u> <dtx投与量></dtx投与量>			<備考欄>			
□前コースと投与量同じ(2コース目以降の)み)					
身長(cm) 体重(,	Kg)				
体表面積(m ²)		1.6,				
DTX(ワンタキソテール)投与量(mg/l	oody)				
= 60mg/m ² ×体表面積(m ²)) × (%)				
						
			主治医	楽剤	刹師	薬剤師
			* Dr. が二重			
12 薬局改訂		_	開始前日10	:30までに薬月	局へ 提出して	てください。

病棟・外来 化学療法ワークシ ー	ト <durvalumab+tr< th=""><th>emelimumab+nab-PTX+CBDCA療法> 第 コース</th></durvalumab+tr<>	emelimumab+nab-PTX+CBDCA療法> 第 コース				
I. 基本情報	- 1 <i></i>					
患者ID @PATIENTID 生年月日 @PATIENTBIRTH3		nelimumab+nab-PTX+CBDCA療法プロトコール(every 3 weeks) day1・8・15・day22				
患者氏名 @PATIENTNAME	1 7	Tremelimumab(イジュド) 75mg/body ↓ next Durvalumab(イミフィンジ) 1500mg/body ↓ in→				
性別 @PATIENTSEXN 年齢 @PATIENTAGEFORMATTED	1 5	プブラキサン) 100mg/m² ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓				
〈疾患名〉		学療法開始日〉 年 月 日				
□非小細胞肺がん	(前コースの投与					
告 知 □あり □なし	イミフィンジ m	イジュド アブラキサン カルボプラチン g mg mg mg				
Ⅱ. 化学療法実施過程* 投与日当日のチェック事項 (記載のない場合	:はDr に確認を行	テった後、薬局3689に連絡する)				
· K Hallow To your Manager Man	TODI: TOREINE					
		第1日目 第2日目 第3日目 第8日目 第15日目				
薬剤名規格	数量					
1) イメンドカプセル (内服:day1はアブラキサン投与開始1~1.5時間前に服		125mg 80mg 80mg				
2) 生食 100mL (持続点滴メイン: ルート確保用)	X1					
3) イジュド 25mg/1.25mL 生食 250mL	×()	V B				
(持続点滴メイン:1時間) 4) 生食 50mL (持続点滴メイン:1時間)	X1	B イジュド: 初回投与の忍容性が良好であれば、2回目の投与以降生食の投与を				
(特別版 個) ** 「	×()	v				
(持続点滴メイン:1時間) 6)生食 50mL	X1					
(持続点滴メイン:1時間) 7) デキサート注 3.3mg/1mL	×2	であれば、2回目の投与以降生食の投				
パロノセトロン点滴バック 0.75mg/50mL (持続点滴側管:0.5時間)	X1					
8) アブラキサン 100mg 生食 100mL (持続点滴側管:0.5時間)	×() ×1	V B				
9) 生食 50mL (持続点滴側管:全開で フラッシュ用)	X1					
10) カルボプラチン注 450mg/45mL						
カルボプラチン注 150mg/15mL カルボプラチン注 50mg/5mL		∨ ∨				
生食 250mL (持続点滴側管:1時間)	× 1	B 目視で確認する。 				
11) 生食 50mL (持続点滴側管:全開で フラッシュ用)	X1	В				
	.10.68					
	A投与量 >	< 備考欄>				
□ □ 前コースと投与量同じ(2コース目以降のみ) ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	V .A	錠、カロナール錠200mg×3錠をイミフィンジ投与30分~1時間前に内服する。 (輸液ライン)				
身長(cm) 体重(体表面積(m ²)	Kg)	・イジュド、イミフィンジ:無菌の蛋白結合性の低い0.2又は0.22 µ mインラインフィルター(ポリエーテルスルホン製)を使用すること。 →JMS輸液セット: PVCフリーで可(上記条件を満たす)				
Tremelimumab(イジュド)投与量 (mg/body)	→JMS輸液セット:PVCノリーで可(上記条件を満たす) アブラキサン: ・血液製剤のため、投与時に特定生物由来製剤伝票にシールを貼付する。				
= 75mg/body	× (%)	・特定生物由来製剤のため、同意書必要 ・特定生物由来製剤のため、同意書必要 ・溶解後に生食で希釈しない				
Durvalumab(イミフィンジ)投与量(= 1500mg/body	mg/body)	・				
	,	「分岐 lUmg x 5岐、ノアモナンノ注 x lAを削投楽として追加する。 ・本レジメンは原則4コースまで実施される。 ・本レジメン終了後、(維持療法期介))Durvalumab+Tremelimumab療法へ移行す				
nab-PTX(アブラキサン) 投与量(= 100mg/m²×体表面積(m²	$\frac{\text{mg/body}}{\text{%}}$	・ キレンメン於 「 伎、(維持療法期 ①) Durvalumab+Tremelimumab療法へ移行する。				
CBDCA(カルボプラチン)投与量(mg/body)					
$= [CCr()+25] \times \overline{AUC6}$	× (%)	主治医薬剤師薬剤師				

病棟・外来 化学療法に	フークシート <d< th=""><th>ırvalumab維持類</th><th>療法></th><th>第</th><th>コース</th></d<>	ırvalumab維持類	療法>	第	コース
I. 基本情報	~				~
患者ID @PATIENTID 生年月日 @PATIENTBIRTH3	Durv	alumab維持療法プ		ery 4 week	
工十月日	Durvalumab(イミフィン	ッジ) 1500mg/day	uayı		next
患者氏名 @PATIENTNAME		., .			in→
性別 @PATIENTSEXN 年齢 @PATIENTAGEFORMATTED					
〈疾患名〉	(前コースの化学	療法開始日〉	年	月 日	3
□小細胞肺がん(進展型)	〈前コースの投与	量〉			
	イミフィンジ				
<u>告知□あり□なし</u>	m	<u> </u>			
Ⅱ.化学療法実施過程					
* 投与日当日のチェック事項 (記載のない	場合はDr. に確認	を行った後、薬局3	689に連絡する 7	る)	
		第1日目	- -		
薬剤名 規格	数量	(
1) 生食 100mL	× 1B		1		
(持続点滴メイン:ルート確保用)					
2) イミフィンジ 500mg/10mL	×()V				
生食 250mL	X1B				
(持続点滴側管:1時間)					
」 3)生食 50mL	× 1B		Ī		
(持続点滴側管:全開で フラッシュ用)					
(13.450)((13.450)(13.450)					
Ⅲ. 化学療法剤投与量算出					
<durvalumab投与量></durvalumab投与量>		<備考欄>			

	<durvalumab投与量></durvalumab投与量>	<備考欄>
[存	「前コースと投与量同じ(2コース目以降のみ) 」 身長(cm) 体重(Kg) 本表面積(m ²)	・インフュージョンリアクションを起こした場合、次回コースよりタリオン錠10mg×1錠、カロナール錠200mg×3錠をイミフィンジ投与30分~1時間前に内服する。 ・0.2又は0.22 μ mインラインフィルター(ポリエーテルスルホン製)を使用すること。
	Durvalumab(イミフィンジ)投与量(mg/body) =1500mg/body × (%)	受用すること。 →JMS輸液セット:PVCフリーで可(上記条件を満たす) ・本レジメンは、白金系抗悪性腫瘍剤とVP16及びDurvalumab併用療法実施後に施行される。
		主治医 薬剤師 薬剤師 ※剤師 ※剤師 ※剤師 ※ Dr. が二重線の枠内を記入して 開始前日10:30までに薬局へ提出してください。
H23. 7	薬局 改訂	

2024/7/2

_{病棟・外来} 化学療法ワークシート <erlot< th=""><th>tinib+Bevacizumab療法)> 第 コース</th></erlot<>	tinib+Bevacizumab 療法)> 第 コース
	ib+Bevacizumab療法プロトコール(every 3 weeks)
生年月日	day1・・・・・・22 ベバシズマブ)15mg/kg ↓ next
│ 患者氏名	in→
	セバ) 150mg/日 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
·—···	分1 食間で内服
年齢 @PATIENTAGEFORMATTED	
〈疾患名〉 「前コースの化塩	学療法開始日〉年月日
□非小細胞肺がん 〈前コースの投-	
べバシズマン	ブータルセバー
<u>【告 知 □あり □なし </u>	mg mg
Ⅱ.化学療法実施過程	
<u>* 投与日当日のチェック事項 (記載のない場合はDr. に確語</u>	認を <u>行った後、薬局3</u> 689に連絡する) ╗ ────
	第1日目
薬剤名 規格 数量	
│ 1)生食 100mL X1E │ (持続点滴:ルート確保用)	3
	│
2) ベバシズマブBS 400mg/16mL ×()\ ベバシズマブBS 100mg/4mL ×()\	* ロロル四条塩法には
生食 100mL X1B(生理食塩液に添加して約100mL	[] 加して約100mLとする。
(持続点滴:1.5時間)	
3) 生食	3
(1寸000点向・主角で ブラブンエカ /	
タルセバ 150mg X(錠)/日	
or タルセバ 100mg X(錠)/日	
or タルセバ 25mg X(錠)/日 (g	分1 食間で内服)
T. ルヴ病汁刘州に早宮山	
Ⅲ. 化学療法剤投与量算出 <bevacizumab •erlotinib="" 投与量=""></bevacizumab>	- │
□前コースと投与量同じ(2コース目以降のみ)	-2)は初回投与の忍容性が良好であれば、2回目の投
身長(cm) 体重(Kg)	与は60分間で行っても良い。
体表面積(m²)	2回目の投与においても忍容性が良好であれば、それ 以降の投与は30分間投与とすることができる。
Bevacizumab(ベバシス゚マプ)投与量(mg/body) = 15mg/kg × (%)	
= 15mg/kg × (%)	・食事の影響を避けるため食事の1時間前~食後2時
Erlotinib(タルセバ) 投与量(mg/body)	間までの間の服用は避けること。
= 150mg/body × (%)	・減量は150mg/日→100mg/日→50mg/日
	★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★
	主治医 薬剤師 薬剤師 薬剤師
	* Dr. が二重線の枠内を記入して
	開始前日10:30までに薬局へ提出してください。

2024/7/2

病棟·外来 化学療法	ワークシ	− ト <g< th=""><th>EM療法(肺が</th><th>ん)></th><th>第</th><th>コース</th></g<>	EM療法(肺が	ん)>	第	コース
I. 基本情報						
患者ID @PATIENTID		GEM	療法(肺がん)プロ	トコール(ev	ery 3 weeks)	
生年月日 @PATIENTBIRTH3	GFM(ゲ	ムシタビン) 1000mg/m ²	dayı・・・	18	· · · day22 next
患者氏名 @PATIENTNAME		_,,,_,	,g,			in→
性別 @PATIENTSEXN 年齢 @PATIENTAGEFORMATTED						
〈疾患名〉	(前コース	スの化学療	法開始日〉 年	月日		
□非小細胞肺がん	〈前コース	スの投与量	t>			
# #P ==================================	ゲムシ	ンタビン				
告知 □あり □なし		mg				
Ⅱ. 化学療法実施過程 *投与日当日のチェック事項 (記載のなし	ハ場合はDr	. に確認を	行った後、薬局30	689に連絡す	よる)	
				, , , , ,		
薬剤名 規格	数量		第1日目	第8日	<u> </u>	
	双里		/			
1) ソルデム3A 200mL (大体 ち 海 オ ノン・リー		X1B				
(持続点滴メイン:ルート確保用)						
2) デキサート 3.3mg/1mL グラニセトロン点滴バック 3mg/100mL		× 2A X1B				
(持続点滴側管:0.5時間)		7.1.5				
3) ゲムシタビン 1000mg	×()V				
ゲムシタビン 200mg 生食 100mL	×()V X1B				
(持続点滴側管:0.5時間)		XIB.				
4) 生食 50mL		× 1B				
(持続点滴側管:全開で フラッシュ用))					
Ⅲ. 化学療法剤投与量算出			ノ出土畑ト			
< GEM投与量>	↑ 71 \		<備考欄>			
□前コースと投与量同じ(2コース目以降 身長(cm) 体重((DA)	Kg)				
体表面積(m ²)						
GEM(ゲムシタビン)投与量(mg/	body)				
= 1000mg/m ² ×体表面積(m ²	²) × (%)				
			主治医	薬剤	刊師	薬剤師
				2137		
			* Dr. が二重線			
			開始前日10:3	80までに薬月	高へ提出して	ください。

病棟・外来 化学療法	ワークシート <na< th=""><th>b-PTX+CBDCA療法></th><th>第コース</th></na<>	b-PTX+CBDCA療法>	第コース
I. 基本情報			
患者ID @PATIENTID 生年月日 @PATIENTBIRTH3	nab-PT)	(+CBDCA療法プロトコール(ev	very 3 weeks) •8••15••day22
	inab-PTX(アブ	ラキサン) 100mg/m² ↓	↓ ↓ next
患者氏名	CBDCA(カル	ボプラチン) AUC6 ↓	in→
性別 @PATIENTSEXN 年齢 @PATIENTAGEFORMATTEI			
〈疾患名〉	一く前コースの化学	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	· — · — · — · — · — · — · — · ·
■ へ 欠 思石/ ■ □ 非小細胞肺がん	(前コースの投与量		年 月 日
	アブラキサン	カルボプラチン mg mg	
Ⅱ. 化学療法実施過程* 投与日当日のチェック事項 (記載のない場合)	合はDr. に確認を行	「った後、薬局3689に連絡する)	
		第1日目 第8日目	第15日目 第15日目
薬剤名 規格	数量		
1) 生食 100mL (持続点滴メイン: ルート確保用)	X1B		
2) デキサート注 3.3mg/1mL	×2A		
グラニセトロン点滴バック 3mg/100mL (持続点滴側管:0.5時間)	X1B		
3) アブラキサン 100mg	×()V		
生食 100mL (持続点滴側管:0.5時間)	× 1B	ß	
4) 生食 50mL (持続点滴側管:全開で フラッシュ用)	X1B		: : Lの生食で溶解。残りの
5) カルボプラチン注 450mg/45mL	×()V	/ 生食は破棄し	、 空ボトルに必要採取量
カルボプラチン注 150mg/15mL カルボプラチン注 50mg/5mL	×()V ×()V		濁液中に不溶物がないが ta
生食 250mL	× 1B		· ••
(持続点滴側管∶1時間)			
6) 生食 50mL (持続点滴側管:全開で フラッシュ用)	X1B		
Ⅲ. 化学療法剤投与量算出]	
< nab-PTX・CBDCA投与量	: >	<備考欄>	
□前コースと投与量同じ(2コース目以降のみ)	・本レジメンは原則最大8コース アブラキサン:	
身長(cm) 体重(Kg)	・血液製剤のため、投与時に特定	≧生物由来製剤伝票に
体表面積(m²)		シールを貼付する。 ・特定生物由来製剤のため、同意	[書 必要
nab-PTX(アブラキサン) 投与量(・溶解後に生食で希釈しない	
= 100mg/m ² ×体表面積(n	n^2) × (%)	・フィルター付きルートを使用しな・アレルギーが出た場合、次回コークを	ースよりパクリタキセルに
CBDCA(カルボプラチン)投与量(mg/body)	準じて、レスタミンコーワ錠10mg を前投薬として追加する。	×5錠、ファモチジン注×1A
$= [CCr()+25] \times \overline{AUC6}$			
		主治医薬剤	師 薬剤師
		* D. がっま始の**ホナミュー	
		* Dr. が二重線の枠内を記入し 開始前日10:30までに薬局へ打	.c 是出してください。
123. 7 薬局 改訂			

病棟・外来 化学療法ワークシー	−ト <nivolumab+ip< th=""><th>ilimumab療法+CBD</th><th>CA+PEM療法></th><th>第コース</th></nivolumab+ip<>	ilimumab療法+CBD	CA+PEM療法>	第コース
I. 基本情報				
│ 患者ID @PATIENTID │生年月日 @PATIENTBIRTH3	Nivolumab + Ip	ilimumab療法+CBDC		トコール(every 6 weeks) ・・・・22・・・・・・43
生年月日	Nivolumab (オプシ	ジーボ) 360mg/boo	•	↓ next
患者氏名 @PATIENTNAME	Ipilimumab (ヤーァ	ドイ) 1mg/kg	1	in→
性別 @PATIENTSEXN	CBDCA(カルボプ		,	\downarrow
年齢 @PATIENTAGEFORMATTED	ـــــــــــــــــــــــــــــــــــــ			
〈疾患名〉	(前コースの化学	学療法開始日〉	年	月 日
□非小細胞肺がん	(前コースの投与		^°/ +-	ト ド カルギプニイン
告知 □あり □なし	オプジーボ	ヤーボイ mg r	ペメトレキ ng	・セド カルボプラチン mg mg
Ⅱ. 化学療法実施過程 *投与日当日のチェック事項 (記載のない場	- 全けDr に確認を行	った後 薬局3689/-	連絡する)	
*** 技学自当自のデエグノ事項 (記載のない場	日はり、「これ生命と1」] [] [
薬剤名 規格	 数量	第1日目 第2日	目 第3日目 第2	22日目 第23日目 第24日目
1) イメンドカプセル	<u> </u>	105		
(内服:day1、22はペメトレキセド開始1~1.5時間	間前に投与)	125mg 80mg	g 80mg 12	25mg 80mg 80mg
2) 生食 100mL (持続点滴メイン:ルート確保用)	× 1E			
3) オプジーボ 240mg/24mL オプジーボ 120mg/12mL	×()\ ×()\			
生食 50mL	X1E			
(持続点滴側管:0.5時間) 4) 生食 50mL	× 1E		L	
(持続点滴側管:0.5時間)				
5) ヤーボイ 50mg/10mL ヤーボイ 20mg/4mL	×()\ ×()\			
生食 100mL	30mL			
(持続点滴側管:0.5時間) 6) デキサート注 3.3mg/1mL	× 2A		要量を注	必要量を注
パロノセトロン点滴バッグ 0.75mg/50mL (持続点滴側管: 0.5時間)	× 1E	:	筒で抜き り、日局生	射筒で抜き
7) ペメトレキセド 800mg/32mL	×()\	/	食塩液に 📗 💳	理食塩液に
ペメトレキセド 500mg/20mL ペメトレキセド 100mg/4mL	×()\ ×()\		加して約 10mLとする。	│ / 添加して約 │
生食 100mL	×1E			100IIILZ 9 30.
(持続点滴側管:10分) 8) カルボプラチン 450mg/45mL	×()\	,		
カルボプラチン 150mg/15mL	×()\	'l		
カルボプラチン 50mg/5mL 生食 250mL	×()\ ×1E			
(持続点滴側管:1時間)				
9) 生食 50mL (持続点滴側管:全開で フラッシュ用)	× 1E			
Ⅲ. 化学療法剤投与量算出		_		
<nivolumab cbdc<="" ipilimumab="" pem="" td="" •=""><td></td><td><備考欄></td><td></td><td></td></nivolumab>		<備考欄>		
□前コースと投与量同じ(2コース目以降のみ		│	アクションを起こした場 ール錠200mg×3錠を	合、次回コースよりタリオン錠 オプジーボ投与1時間前に内服す
身長(cm) 体重(Kg)	る。 (輸液ライン)	6	
严 发血液(・オプジーボ:インラ		.22 μm)を使用すること。
Nivolumab (オプジーボ) 投与量 (mg/body)	ターを通して投与す	ること。	マイルターを用いたインラインフィル
=360mg/body	× (%)		VCフリーで可(上記条 Dみ行われ、施行後、	:件を満たす) Nivolumab+Ipilimumab療法(肺が
Ipilimumab(ヤーボイ)投与量(mg/body)	ん)に移行する。		以上前より①パンビタン末1g連日
$=1 \frac{mg}{kg}$			ル注2Aを9週毎に投与	
PEM(ペメトレキセド)投与量(= 500mg/m ² ×体表面積(m [*]	mg/body)			
			a	
CBDCA(カルボプラチン) 投与量(= [CCr()+25] × AUC5~6	mg/body) ×(%)	主治医	薬剤的	師 薬剤師 薬剤師
- (OUT) /+20] × AUC0~0	^ (%)			

I. 基本情報	病棟•外来	化学療法ワー会	クシート <nivoluma< th=""><th>b+Ipilimumab療法(肺がん)></th><th>第コース</th></nivoluma<>	b+Ipilimumab療法(肺がん)>	第コース		
### ### ### ### ### #################							
患者氏名 @PATIENTNAME 性別 @PATIENTSEXN 年齢 @PATIENTAGEFORMATTED (疾患名〉 □非小細胞肺がん 告 知 □あり □なし 『前コースの化学療法開始日〉 年 月 日 (前コースの投与量〉 オブジーボ ヤーボイ mg mg mg I. 化学療法実施過程 * 投与日当日のチェック事項 (記載のない場合はDr. (に確認を行った後、薬局3689に連絡する) ※第1日目 第22日目 ※第1日目 第22日目 ※第1日目 第22日目 ※第1日目 第22日目 ※第1日 第22日目 ※第1日目 第22日目 ※第1日目 第22日目 ※前名 規格 数量 1)生食 100mL (持続点滴メイン:ルート確保用) 2) オブジーボ 240mg/24mL ×()V オブジーボ 120mg/12mL ×()V 生食 50mL (持続点滴側管:0.5時間) 3)生食 50mL ×1B (持続点滴側管:0.5時間) 4)ヤーボイ 20mg/4mL ×()V 生食 100mL ×()V			Nivolumab +	-Ipilimumab療法(肺がん)プロトコ	ール(every 6 weeks)		
### ### ### #########################	<u> </u>	(TENTOINTIO	Nivolumab (2	•			
年齢 @PATIENTAGEFORMATTED (患者氏名 @PA ⁻	TIENTNAME			in→		
(疾患名) □非小細胞肺がん 告知 □あり □なし □・化学療法実施過程 * 投与日当日のチェック事項 (記載のない場合はDr. (こ確認を行った後、薬局3689に連絡する) □・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・							
□非小細胞肺がん 告知 □あり □なし mg mg mg I. 化学療法実施過程 * 投与日当日のチェック事項 (記載のない場合はDr. に確認を行った後、薬局3689に連絡する) 薬剤名 規格 数量 1) 生食 100mL ×1B (持続点滴メイン:ルート確保用) 2) オプジーボ 240mg/24mL ×()V ナブジーボ 120mg/12mL ×()V 生食 50mL ×1B (持続点滴側管:0.5時間) 3) 生食 50mL ×1B (持続点滴側管:0.5時間) 4) ヤーボイ 50mg/10mL ×()V ヤーボイ 20mg/4mL ×()V 生食 100mL ×()V 生食 100mL ×()V 生食 100mL ×()V 生食 100mL が 30mL (持続点滴側管:0.5時間) 5) 生食 50mL ×1B (持続点滴側管:0.5時間)			L	·····································			
### A					年 月 日		
 性 知 □あり □なし mg mg 正 化学療法実施過程 * 投与日当日のチェック事項 (記載のない場合はDr. に確認を行った後、薬局3689に連絡する) 第1日目 第22日目 薬剤名 規格 数量 (に確認を行った後、薬局3689に連絡する) 1)生食 100mL × 1B (持続点滴メイン: ルート確保用) 2) オプジーボ 240mg/24mL ×()V 大プジーボ 120mg/12mL ×()V 生食 50mL X1B (持続点滴側管:0.5時間) 3) 生食 50mL × 1B (持続点滴側管:0.5時間) 4) ヤーボイ 50mg/10mL ×()V ヤーボイ 20mg/4mL ×()V セ食 100mL 30mL (持続点滴側管:0.5時間) 5) 生食 50mL × 1B 	— ☐ ЭF (1, 小田 UG U	70، وراان					
*投与日当日のチェック事項(記載のない場合はDr. に確認を行った後、薬局3689に連絡する) 「薬剤名 規格 数量 第1日目 第22日目 (持続点滴メイン:ルート確保用) ② オブジーボ 240mg/24mL ×()V 生食 50mL X1B (持続点滴側管:0.5時間) 3) 生食 50mL × 1B (持続点滴側管:0.5時間) 4) ヤーボイ 50mg/10mL ×()V ヤーボイ 20mg/4mL ×()V 生食 100mL 30mL (持続点滴側管:0.5時間) 5) 生食 50mL × 1B (持続点滴側管:0.5時間)	告知 □あり □]なし					
第1日目 第22日目 第1日目 第22日目 第222日目 第22日			#A#A !- 7 ☆ =	四大年,北外,英里2000年東約十	7 \		
薬剤名 規格 数量 1) 生食 100mL ×1B (持続点滴メイン:ルート確保用) ×())V オプジーボ 240mg/24mL ×())V 生食 50mL ×1B (持続点滴側管:0.5時間) ×1B (持続点滴側管:0.5時間) 4) ヤーボイ 50mg/10mL ×()V ヤーボイ 20mg/4mL ×()V 生食 100mL 30mL (持続点滴側管:0.5時間) ×1B	* 投与日当日のチェック	/事項 (記載のない	·場合はDr. に唯語	3を行つた後、楽局36891〜連絡9^ ┃	<u>ත)</u>		
薬剤名 規格 数量 1) 生食 100mL ×1B (持続点滴メイン:ルート確保用) ×())V オプジーボ 240mg/24mL ×())V 生食 50mL ×1B (持続点滴側管:0.5時間) ×1B (持続点滴側管:0.5時間) 4) ヤーボイ 50mg/10mL ×()V ヤーボイ 20mg/4mL ×()V 生食 100mL 30mL (持続点滴側管:0.5時間) ×1B							
1) 生食 100mL ×1B (持続点滴メイン:ルート確保用) 2) オプジーボ 240mg/24mL ×()V オプジーボ 120mg/12mL ×()V 生食 50mL (持続点滴側管:0.5時間) 3) 生食 50mL ×1B (持続点滴側管:0.5時間) 4) ヤーボイ 50mg/10mL ×()V ヤーボイ 20mg/4mL ×()V 生食 100mL (持続点滴側管:0.5時間) 5) 生食 50mL ×1B	遊刘夕			第1日目 第22日	<u> </u>		
(持続点滴メイン:ルート確保用) 2) オプジーボ 240mg/24mL ×()V オプジーボ 120mg/12mL ×()V 生食 50mL X1B (持続点滴側管:0.5時間) 3) 生食 50mL × 1B (持続点滴側管:0.5時間) 4) ヤーボイ 50mg/10mL ×()V ヤーボイ 20mg/4mL ×()V 生食 100mL 30mL (持続点滴側管:0.5時間) 5) 生食 50mL × 1B							
2) オプジーボ 240mg/24mL ×()V オプジーボ 120mg/12mL ×()V 生食 50mL (持続点滴側管:0.5時間) X1B 3) 生食 50mL (持続点滴側管:0.5時間) ×1B 4) ヤーボイ 50mg/10mL ×()V ヤーボイ 20mg/4mL ×()V 生食 100mL (持続点滴側管:0.5時間) ×()V ターボース 20mg/4mL ×()D 5) 生食 50mL ×1B ×1B			× 1B				
オプジーボ 120mg/12mL			×()V		=		
生食 50mL X1B (持続点滴側管:0.5時間) 3) 生食 50mL ×1B (持続点滴側管:0.5時間) 4) ヤーボイ 50mg/10mL ×()V ヤーボイ 20mg/4mL ×()V 生食 100mL 30mL (持続点滴側管:0.5時間) 5) 生食 50mL ×1B							
3) 生食 50mL ×1B (持続点滴側管:0.5時間) ×()V ヤーボイ 50mg/10mL ×()V ヤーボイ 20mg/4mL ×()V 生食 100mL 30mL (持続点滴側管:0.5時間) ×1B							
(持続点滴側管:0.5時間) 4) ヤーボイ 50mg/10mL ×()V ヤーボイ 20mg/4mL ×()V 生食 100mL 30mL (持続点滴側管:0.5時間) 5) 生食 50mL ×1B	(持続点滴側管:0.5	5時間)					
4) ヤーボイ 50mg/10mL ×()V ヤーボイ 20mg/4mL ×()V 生食 100mL 30mL (持続点滴側管:0.5時間) ×1B	3) 生食	50mL	× 1B				
ヤーボイ 20mg/4mL ×()V 生食 100mL 30mL (持続点滴側管:0.5時間) 5) 生食 50mL ×1B	(持続点滴側管:0.5	5時間)					
生食 100mL 30mL (持続点滴側管:0.5時間) ×1B	4) ヤーボイ 5	i0mg/10mL	×()V				
(持続点滴側管:0.5時間) 5) 生食 50mL ×1B		_					
5) 生食 50mL ×1B			30mL				
					_		
(铁连占海洲兽,全臂衣 フラッシュ 田)			× 1B				
(付税品)	(持続点滴側管:全	開で フラッシュ用)					
Ⅲ. 化学療法剤投与量算出	Ⅲ. 化学療法剤投与量	算出					
<nivolumab ipilimumab投与量="" ·=""> <備考欄></nivolumab>							
前コースと投与量同じ(2コース目以降のみ) ・インフュージョンリアクションを起こした場合、次回コースよりタリオー 身長(cm) 体重(Kg) ・インフュージョンリアクションを起こした場合、次回コースよりタリオー ン錠10mg×1錠、カロナール錠200mg×3錠をオプジーボ投与1時							
The control of th		· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	Ng)	間前に内服する。			
・オプジーボ: インラインフィルター(0.2~0.22 μ m)を使用すること。	Nivolumob (オプジーナ	₹)投与是 <i>(</i>	١٠ اله ١٠ عا/ به معد	・オプジーボ:インラインフィルター(0.			
Nivolumab (オプジーボ) 投与量 (mg/body) ・ヤーホイ: 0.2~1.2ミクロンのメンフランフィルターを用いたインラインフィルターを通して投与すること。 = 360mg/body × (%) →JMS輸液セット: PVCフリーで可(上記条件を満たす)	Mivolullian (A) > — A			ンフィルターを通して投与すること。			
Ipilimumab (ヤーボイ) 投与量 (mg/body)	Ipilimumah(ヤーボイ	()投与量(ma/hody)		•		
=1mg/kg × (%)	I Philliaman () ()	/ / / / - \	ilig/ bouy/				

主治医

H23. 7 薬局 改訂

薬剤師

2024/7/2

薬剤師

病棟・外来	】 化学療法ワ·	ークシー	ト <nivo< th=""><th>olumab療法(肺が</th><th>ん)></th><th>第</th><th>コース</th></nivo<>	olumab療法(肺が	ん)>	第	コース		
I. 基本情報 患者ID	PATIENTID		Nivolum		コトコール(e	very 2 we	eks)		
	ATIENTBIRTH3	Nivo		プジーボ) 240mg/bod	day1••••				
患者氏名 @PA	TIENTNAME			, ,	,		in→		
1-733	PATIENTSEXN NTAGEFORMATTED						 		
	患名〉			療法開始日〉	年	月	3		
□非小細胞。 □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □			スの投与』 ジーボ	里/					
<u>告知□あり</u> [<u>なし</u>		mg						
Ⅱ. 化学療法実施過程 <u>*投与日当日のチェッ</u>		場合はDr	. に確認る	を行った後、薬局368	9に連絡する	న)			
	7 7 (85 77 17 5	<u> </u>				<i>-</i> ,			
				第1日目					
薬剤名	規格	数量							
1) 生食 (持続点滴メイン: //	100mL ルート確保用)		× 1B						
2) オプジーボ 2	_	×()V						
生食 (持続点滴側管:0.	50mL 5時間)		X1B						
3) 生食 (持続点滴側管:全	50mL :開で フラッシュ用)		× 1B						
Ⅲ. 化学療法剤投与量	Ⅲ. 化学療法剤投与量算出								
<n< td=""><td>Nivolumab投与量></td><td></td><td></td><td><備考欄></td><td> ·</td><td></td><td>*</td></n<>	Nivolumab投与量>			<備考欄>	·		*		
前コースと投与量所 身長(体表面積(司じ(2コース目以降 <i>0.</i> cm) 体重(m ²))	Kg)	・インフュージョンリフ りタリオン錠10mg× ジーボ投与1時間前 ・インラインフィルタ-	1錠、カロナ - に内服する。	-ル錠200m	ıg×3錠をオプ		
Nivolumab (オプジーオ		mg/	body) %)	→JMS輸液セット:P					

主治医

薬剤師

薬剤師

病棟・外来	化学療法	ミワークシ	- ト<	Nogite	can療法	>	第		コース
 I . 基本情報									
生年月日 @PATIE	TIENTID ENTBIRTH3 ENTNAME	Nogitecan(l—Jレ(every day1 2 3 ↓ ↓ ↓	4 5		day22 next
性別 @PATI	ENTSEXN GEFORMATTED	j 			·· - ·-				in→
〈疾患名 □小細胞肺がん		(前コースの (前コースの ハイカム	の投与量		∃〉		年	月	日
告 知 □あり □な	:L		mg						
Ⅲ. 化学療法実施過程*投与日当日のチェック事	項 (記載のない	場合はDr. に	こ確認を	行った後	发、薬局368	39に連絡する	5)		
				第1日目	第2日目	第3日目	第4日目	第5日	
薬剤名		数量			()	()		(
1) ソルデム3A (持続点滴メイン: ルー	200mL 卜確保用)		X1B						
2) グラニセトロン点滴バック 3 (持続点滴側管:0.5時			X1B						
3) ハイカムチン注 生食 (持続点滴側管:0.5時	1.1mg 100mL 間)	×()V X1B						
4) 生食 (持続点滴側管:全開 ⁻	50mL で フラッシュ用)		× 1B						
Ⅲ. 化学療法剤投与量算品	±								
< No	gitecan投与量>			<備考					
	(2コース目以降の cm) 体重(m ²)		Kg)	ハイカ <i>I</i> ・1段階		/m²/日、1段	设階増量1. 2	2mg/m²	2/日
Nogitecan(ハイカムチン) 抄 = 1mg/m ² ×体表面を		mg/bo	dy) %)						
				* Dr.		薬剤! 薬剤! の枠内を記りまでに薬局	入して		剤師

	病棟∙外来	化学療法ワー	-クシート<	(PEM+Be	evacizumab <u>据</u>	表法>	第	コース
I. 基本情報							. — . —	
患者ID 生年月日	@PATIE @PATIENT	14	PEM	+Bevacizu	ımab療法プロ	トコール(ever dav1・・・・		
		12-	PEM(ペメトレ	ノキヤド)	500mg/m			next
患者氏名	@PATIEN	I INAIVIE			(マブ) 15mg/l			in→
性別 年齢	@PATIENT	1 7						
十断	@PATIENTAGE	ORMATTED						
ᅠ급타기	〈疾患名〉 \細胞肺がん		〈前コース <i>の</i> 前コースの投)化学療法開 ・5 景 \	始日〉	年	月	日
_			スペストロール・スペント		ベバシズマブ			
<u>告知 □あり</u>	<u>□</u> な <u>し</u>			mg	mg			
Ⅱ.化学療法実施過		祖人はり に変割す	上午 - + 後	日00001-1本	タ ナフ\			
*技与ロヨロのテエ	ック事項 (記載のない	场音はDr. に唯認る	と打つに依、祭	(月30891~) 	谷9句/			
					第1日目			
薬剤:		 ζ	 数量	()			
1)ソルデム3A	2	200mL		X1B		1		
	イン:ルート確保用)							
2) デキサート注	3.3mg	g/1mL		× 2A				
グラニセトロン,				X1B				
(持続点滴側)	管:0.5時間)					必要量を	上注射筒で	物
3) ペメトレキセド	800mg/	′32mL	×()V		き取り、	日局生理:	食
ペメトレキセド	J		×()V		塩液に済 100mLと	な加して約 ·する]
ペメトレキセド	`		×()V			7.00	J
生食 (持続点滴側 ⁹		l00mL		X1B				
			,			(を注射筒で	≈抜
4) ベバシズマブ ベバシズマブ	J	′16mL g/4mL	×(×()V)V		き取り、	日局生理:	食
生食	`	g/ 4111L 00 mL x1B(生理食塩	•	′ '		塩液に添 100mLと	系加して約 ·する]
一人 (持続点滴側 ¹		, c c , , , , ,					. 7 0 0	J
5) 生食		50mL		× 1B				
	管:全開で フラッシ:	ュ用)						
Ⅲ. 化学療法剤投与		. 15 - 5 -			# + IBI \			
	< PEM・Bevacizur と与量同じ(2コース				備考欄> レジメンは原則	ICDDP(ショート)+PFM+	<u> </u>
身長()体重(K	(g) Be	vacizumab療法	を施行後に行う	5。	
体表面積(^			- -4)	は抗がん剤と係 売き点滴時間を			
PEM(ペメトレキセド) 投与	.量(mg/boo	/y) ·~	メトレキセド投	与1週間以上前	より①パン	ンビタン末
= 500mg	g/m ² ×体表面積($m^2) \times$: (%) 1gi	連日内服。②メ	チコバール注2/	4を9週毎1	に投与。
Bevacizumab (ベバシズマブ)投与	.量(mg/boo	dy)				
	=	= 15mg/kg × (%)				
					主治医	薬剤師]	薬剤師
							7	
					 Dr. が二重線のホ	九内太司31ヶ	_	
					Dr. か―里緑の7 開始前日10:30ま		してください	١,
7 薬局 改訂								

病棟・外来 化学療法ワークシ	ノート <pembrolizum< th=""><th>nab+nab-PTX+CBDCA療法> 第 コース</th></pembrolizum<>	nab+nab-PTX+CBDCA療法> 第 コース
I. 基本情報 患者ID @PATIENTID	Pembrolizumah +	-nab-PTX+CBDCA療法プロトコール(every 3 weeks)
生年月日 @PATIENTBIRTH3		day1 • • 8 • • 15 • • day22
患者氏名 @PATIENTNAME		$\phi(キイトルーダ)200$ mg/body \downarrow next ブラキサン) 100 mg/m 2 \downarrow \downarrow in \rightarrow
性別 @PATIENTSEXN		レボプラチン) AUC6 ↓
年齢 @PATIENTAGEFORMATTED	!	
〈疾患名〉 □非小細胞肺がん(扁平上皮がん)	〈前コースの化学 〈前コースの投与量〉	
	キイトルーダ	, アブラキサン カルボプラチン
<u>告知 □あり □なし</u>	m	ng mg mg
Ⅱ. 化学療法実施過程* 投与日当日のチェック事項 (記載のない場合)	けりたに確認を行	った後 薬長3680に連絡する)
* 投子口ヨロのアエグク事項 (記載のない場合)	より「、「〜1年1021]	
]
薬剤名 規格	数量	
1) イメンドカプセル	×1セット	125mg 80mg 80mg
(内服: day1はアブラキサン投与開始1~1.5時間記 2)生食 100mL	前に服用) X1B	
2) 生食 100mL (持続点滴メイン:ルート確保用)	XIR	
3) キイトルーダ 100mg/4mL	×()V	
生食 100mL (持続点滴メイン: 0.5時間)	× 1B	
4)生食 50mL	X1B	
(持続点滴メイン:全開で フラッシュ用)		
5) デキサート注 3.3mg/1mL グラニセトロン点滴バッ· 3mg/100mL	× 2A	
グラニセトロン点滴バッ· 3mg/100mL (持続点滴側管:0.5時間)	X1B	
6) アブラキサン 100mg	×()V	
生食 100mL (持続点滴側管:0.5時間)	× 1B	
7) 生食 50mL	X1B	
(持続点滴側管:全開で フラッシュ用)	7.15	│
8) カルボプラチン注 450mg/45mL	×()V	生食は破棄し、空ボトルに必要採取
カルボプラチン注 150mg/15mL カルボプラチン注 50mg/5mL	×()V ×()V	を入れる。懸濁液中に不溶物がない。 目視で確認する。
生食 250mL	× 1B	
(持続点滴側管:1時間)		
9) 生食 50mL (持続点滴側管:全開で フラッシュ用)	X1B	
Ⅲ. 化学療法剤投与量算出		
< Pembrolizumab · nab-PTX · CBDCA投与	5量 >	<備考欄>
□前コースと投与量同じ(2コース目以降のみ)		- イイトルータ: - インラインフィルター(0.2~5μm)を使用すること。 - →JMS輸液セット: PVCフリーで可(上記条件を満たす)
身長(cm) 体重(h表面積(m ²)	Kg)	・インフュージョンリアクションを起こした場合、次回コースよりタリオン錠10mg× 錠、カロナール錠200mg×3錠をキイトルーダ投与1時間前に内服する。
Pembrolizumab (キイトルーダ) 投与量 (mg/body)	アブラキサン: ・血液製剤のため、投与時に特定生物由来製剤伝票にシールを貼付する。
= 200mg/body >		・特定生物由来製剤のため、同意書必要 ・溶解後に生食で希釈しない
		・フィルター付きルートを使用しない・アレルギーが出た場合、次回コースよりパクリタキセルに準じて、レスタミンコ・ ワ錠10mg×5錠、ファモチジン注×1Aを前投薬として追加する。
nab-PTX(アブラキサン)投与量(= 100mg/m ² ×体表面積(m ²)	mg/body) (・本レジメンは原則最大4コース ・本レジメン終了後、Pembrolizumab療法へ移行する。
	•	
CBDCA(カルボプラチン)投与量(= [CCr()+25]×AUC6 >	mg/body)	主治医 薬剤師 薬剤師
	·	<u> </u> L * Dr. が二重線の枠内を記入して
123. 7 藻肠改訂		開始前日10:30までに薬局へ提出してください。

B 老 氏 タ		
生年月日 @PATIENTBIRTH3 day1・・ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		
B 老氏タ	ル(every 3	weeks) day22
		next
思有氏名		in→
年齢 @PATIENTAGEFORMATTED /		
〈疾患名〉 (前コースの化学療法開始日〉	年 月	日
□非小細胞肺がん(非扁平上皮がん)┃┃(前コースの投与量)		
性 知 □あり □なし	プラチン mg	
* 投与ロヨロのチェクク事項 (記載のない場合はDr. に確認を1) フた後、業局300年に建設する/		
	<i>**</i> **********************************	
第1日目 第2日目 第1日目 第2日目 1	第3日目	
1) イヤルトカナル	/	
(内服: day1はペメトレキセド開始1~1.5時間前に投与) 125mg 80mg L	80mg	
2) 生食 100mL X1B (持続点滴メイン: ルート確保用) 100mL		
(持続点周24フ.ルード確保用) 3) キイトルーダ 100mg/4mL ×()V		
生食 100mL X1B		
(持続点滴側管:0.5時間) 4) デキサート注 3.3mg/1mL × 2A × 2		
4) デキサート注 3.3mg/1mL × 2A グラニセトロン点滴バック 3mg/100mL × 1B		
(持続点滴側管:0.5時間)		
5) ペメトレキセド		
ペメトレキセド 100mg/4mL ×()V		
生食 100mL X1B X1B ———————————————————————————————		
生食 100mL X1B (持続点滴側管:10分) (持続点滴側管:10分) (45mL ×()V ()V () () () () () () () (
(持続点滴側管:10分) 6) カルボプラチン 450mg/45mL ×()V カルボプラチン 150mg/15mL ×()V		
(持続点滴側管:10分) 6)カルボプラチン 450mg/45mL ×()V □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □		
(持続点滴側管:10分) 6) カルボプラチン 450mg/45mL ×()V カルボプラチン 150mg/15mL ×()V カルボプラチン 50mg/5mL ×()V 生食 250mL ×1B (持続点滴側管:1時間)		
(持続点滴側管:10分) 6) カルボプラチン 450mg/45mL ×()V カルボプラチン 150mg/15mL ×()V カルボプラチン 50mg/5mL ×()V 生食 250mL ×1B		
(持続点滴側管:10分) 6) カルボプラチン 450mg/45mL ×()V カルボプラチン 150mg/15mL ×()V カルボプラチン 50mg/5mL ×()V 生食 250mL ×1B (持続点滴側管:1時間) 7) 生食 50mL ×1B (持続点滴側管:全開で フラッシュ用) Ⅲ. 化学療法剤投与量算出		
(持続点滴側管:10分) 6) カルボプラチン 450mg/45mL ×()V カルボプラチン 150mg/15mL ×()V カルボプラチン 50mg/5mL ×()V 生食 250mL ×1B (持続点滴側管:1時間) 7) 生食 50mL ×1B (持続点滴側管:全開で フラッシュ用) エ. 化学療法剤投与量算出 < Pembrolizumab・PEM・CBDCA投与量 >	ションを起こした	場合、次问
(持続点滴側管:10分) 6) カルボプラチン 450mg/45mL ×()V カルボプラチン 150mg/15mL ×()V カルボプラチン 50mg/5mL ×()V 生食 250mL ×1B (持続点滴側管:1時間) 7) 生食 50mL ×1B (持続点滴側管:全開で フラッシュ用) Ⅲ. 化学療法剤投与量算出 <		
(持続点滴側管:10分) 6) カルボプラチン 450mg/45mL ×()V カルボプラチン 150mg/15mL ×()V カルボプラチン 50mg/5mL ×()V 生食 250mL ×1B (持続点滴側管:1時間) 7) 生食 50mL ×1B (持続点滴側管:全開で フラッシュ用) Ⅲ. 化学療法剤投与量算出 <	ナール錠200mg 用すること。	×3錠をキイ
(持続点滴側管:10分) 6) カルボプラチン 450mg/45mL ×()V カルボプラチン 150mg/15mL ×()V カルボプラチン 50mg/5mL ×()V 生食 250mL ×1B (持続点滴側管:1時間) 7) 生食 50mL ×1B (持続点滴側管:全開で フラッシュ用) Ⅲ. 化学療法剤投与量算出 <pembrolizumab・pem・cbdca投与量> 「前コースと投与量同じ(2コース目以降のみ) 身長(cm) 体重(Kg) トルーダ投与1時間前に内服する。・インラインフィルター(02~5μ m)を使・フMS輸液セット:PVCフリーで可(上部ペメリー・フMS輸液セット:アVCフリーで可(上部ペメリー・フリスを9週毎に投与。 Pembrolizumab(キイトルーダ)投与量(mg/body) ペメトレキセド:投与1週間以上前より何(2メチョバール注2Aを9週毎に投与。</pembrolizumab・pem・cbdca投与量>	ナール錠200mg 用すること。 己条件を満たす)	×3錠をキイ)
(持続点滴側管:10分) 6) カルボプラチン 450mg/45mL ×()V カルボプラチン 150mg/15mL ×()V カルボプラチン 50mg/5mL ×()V 生食 250mL ×1B (持続点滴側管:1時間) 7) 生食 50mL ×1B (持続点滴側管:全開で フラッシュ用) Ⅲ. 化学療法剤投与量算出 <pembrolizumab・pem・cbdca投与量></pembrolizumab・pem・cbdca投与量>	ナール錠200mg 用すること。 已条件を満たす) Dパンビタン末1	×3錠をキイ) g連日内服。
(持続点滴側管:10分) 6) カルボプラチン 450mg/45mL ×()V カルボプラチン 150mg/15mL ×()V カルボプラチン 50mg/5mL ×()V 生食 250mL ×1B (持続点滴側管:1時間) 7) 生食 50mL ×1B (持続点滴側管:全開で フラッシュ用) Ⅲ. 化学療法剤投与量算出	ナール錠200mg 用すること。 已条件を満たす) Dパンビタン末1	×3錠をキイ) g連日内服。
(持続点滴側管:10分) 6) カルポプラチン 450mg/45mL ×()V カルポプラチン 150mg/15mL ×()V カルポプラチン 50mg/5mL ×()V 生食 250mL ×1B (持続点滴側管:1時間) 7) 生食 50mL ×1B (持続点滴側管:全開で フラッシュ用) Ⅲ. 化学療法剤投与量算出 <pembrolizumab・pem・cbdca投与量></pembrolizumab・pem・cbdca投与量>	ナール錠200mg 用すること。 已条件を満たす) Dパンビタン末1 PEM療法へ移行	×3錠をキイ) g連日内服。 T する。
(持続点滴側管:10分) 6) カルボプラチン 450mg/45mL ×()V カルボプラチン 150mg/15mL ×()V カルボプラチン 50mg/5mL ×()V 生食 250mL ×1B (持続点滴側管:1時間) 7) 生食 50mL ×1B (持続点滴側管:全開で フラッシュ用) Ⅲ. 化学療法剤投与量算出	ナール錠200mg 用すること。 已条件を満たす) Dパンビタン末1 PEM療法へ移行	×3錠をキイ) g連日内服。
(持続点滴側管:10分) 6) カルボプラチン 450mg/45mL ×()V カルボプラチン 150mg/15mL ×()V 生食 250mL ×1B (持続点滴側管:1時間) 7) 生食 50mL ×1B (持続点滴側管:全開で フラッシュ用) ■ 化学療法剤投与量算出	ナール錠200mg 用すること。 記条件を満たす) パンビタン末1 PEM療法へ移行	×3錠をキイ) g連日内服。 T する。

病棟•外来	化学療法ワ	フークシート<	<pemb< th=""><th>rolizumab+PEM療</th><th>法></th><th>第</th><th>コース</th></pemb<>	rolizumab+PE M療	法>	第	コース
					•		
患者ID @F	PATIENTID	Peml	brolizur	mab+PEM療法プロ	トコール(eve	ry 3 wee	
生年月日 @PAT	ΓΙΕΝΤΒΙRTH3			**\ 0.00 //	day1••••		day22
患者氏名 @PAT	TENTNAME	Pembrolizuma PEM(ペメトレ		〜ルーダ) 200mg/body () 500mg/m ²	↓ 		next in→
性別 @PA	TIENTSEXN	I LIVIC VY L	D-1 C1) 000mg/m	V		"'
	AGEFORMATTED	!					
〈疾患名	>	(前コースの	の化学	療法開始日〉	年	月	日
□非小細胞肺がん	(非扁平上皮がん)	1 1					
 告 知 □あり □なし		キイトル	レータ mg	ペパレキセド g mg			
Ⅱ.化学療法実施過程							
*投与日当日のチェック事項	(記載のない場合	はDr. に確認	忍を行っ	った後、薬局3689に	連絡する)		
				<u></u>			
薬剤名		 数量		第1日目			
		双里		7			
1) 生食 (持続点滴メイン: ルート研	100mL 雀保用)		X1B				
	00 mg/4 mL	×()V				
生食	100mL		X1B				
(持続点滴側管:0.5時間)			V 0 4				
	3.3mg/1mL 3mg/100mL		× 2A × 1B				
(持続点滴側管:0.5時間)	_		~ 15		沙西里去		7.++\
	00mg/32mL	×()V			と注射筒 [·] 日局生理	
• •	00mg/20mL	× ()V		」塩液に瀕	た加して 糸	
	00mg/4mL	×()V		< 100mL≥	:する。	J
生食	100mL		X1B				
(持続点滴側管:10分)	50 I		1D				
┃5) 生食 ┃ (持続点滴側管:全開で	50mL フラッシュ用)		× 1B				
Ⅲ. 化学療法剤投与量算出							
	mab・PEM 投与量>	>		<備考欄>			
□前コースと投与量同じ(2=	コース目以降のみ)			・キイトルーダ: インフュージョン錠10mg×1錠、カロナール			
身長(cm) 体重(Kg)	する。 ・インラインフィルター(0.2~5)	um)を使用すること。		
体表面積(m ²)			→JMS輸液セット:PVCフリーペメトレキセド:投与1週間以_	で可(上記条件を満た		服 ②メチコバー
Pembrolizumab (キイトルーダ		mg/bo		ル注2Aを9週毎に投与。 ・本レジメンはPembrolizumab		_	
	= 200mg/body		%)	・本レジメンはPembrolizumab (本レジメンでは最大31コース	+PEM+CBDCA療法		
PEM(ペメトレキセド)投与量(mg/bo	ody)	(本レジメンでは取入31コース	./111/1/ 0 0		
= 500mg/m ² ×体表面) x (%)				
				主治医	薬剤師		薬剤師
					- 11 1 1	<u> </u>	
				* Dr. が二重線			一/1 01.
				開始前日10:3	Uまでに楽局へ	へ提出し	んくたさい

病棟・外来 化学療法ワー	クシート <pemb< th=""><th>rolizumab療法(肺がん)></th><th>第 コース</th></pemb<>	rolizumab療法(肺がん)>	第 コース
I. 基本情報			
患者ID @PATIENTID	Pembroli	zumab療法(肺がん)プロトコール(
生年月日 @PATIENTBIRTH3		7	22
患者氏名 @PATIENTNAME	Pembrolizumab(キイ	トルーダ)200mg/body ↓	next in→
性別 @PATIENTSEXN 年齢 @PATIENTAGEFORMATTED	 		
〈疾患名〉	(前コースの化学	療法開始日〉 年	月日
□非小細胞肺がん	(前コースの投与	·····	// -
3F/1.∿™ԱԾԱՈՒՆ ՆՆ	、 コースの収す	里/	
告 知 □あり □なし		g	
Ⅱ. 化学療法実施過程 _*投与日当日のチェック事項 (記載のない)	、提合けDr に確認	を行った後 薬員3680に連絡する)
** 技学自当自のチェクク事項 (記載のなり		とり 万に及、朱内500年に建稲する。	/
	-	第1日目	
薬剤名 規格	数量		
1) 生食 100mL	× 1B		
(持続点滴メイン:ルート確保用)			
2) キイトルーダ 100mg/4mL	×()V		
生食 100mL	X1B		
	X1D		
(持続点滴側管:0.5時間)			
3) 生食 50mL	× 1B		
(持続点滴側管:全開で フラッシュ用)			
Ⅲ. 化学療法剤投与量算出			
<pembrolizumab投与量></pembrolizumab投与量>	>	<備考欄>	
前コースと投与量同じ(2コース目以降の	り み)	・インフュージョンリアクションを起こした	
身長(cm) 体重(Kg)	ン錠10mg×1錠、カロナール錠200mg>	く3錠をキイトルーダ投与1時
体表面積(m ²)		間前に内服する。 ・インラインフィルター(0.2~5 μ m)を使り	用すること。
		→JMS輸液セット:PVCフリーで可(上記	3条件を満たす)
Pembrolizumab(キイトルーダ)投与量(mg/body)	※Pembrolizumab+nab-PTX+CBDCAは原則最大31コースまで。	4療法から移行してきた場合
=200mg/body	× (%)	は原見取入され一人まで。	

* Dr. が二重線の枠内を記入して 開始前日10:30までに薬局へ提出してください。

病棟・外来	化学療法ワ	ークシート <pem療法< th=""><th>k></th><th>第 コース</th></pem療法<>	k >	第 コース
I. 基本情報				
,	TENTID	PEM療法プロト	コール(every 3 wee	
生年月日 @PATIEN	NTBIRTH3		day1••••	·····day22
患者氏名 @PATIE	NTNAME PEM(~.	メトレキセド)	500mg/ ↓	next in→
.—	ENTSEXN			
年齢 @PATIENTAG	GEFORMATTED			
〈疾患名〉	(前コ-	-スの化学療法開始日〉		F 月 日
□非小細胞肺がん		の投与量〉		,, ,
		・レキセド		
<u>告知□あり</u> □なし		mg		
II. 化学療法実施過程 *投与日当日のチェック事項 (記載のな	ない場合はDr. に確認を行った役	後、薬局3689に連絡する)		
		第1日		
薬剤名	見格 数量	()	
 1) デキサート注 3.3)	× 2A		
<u> </u>	Bmg/1mL	× 2A		
	g/100mL	X1B		
(持続点滴:0.5時間)				+ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \
2) ペメトレキセド 800m	g/32mL ×()V		を注射筒で抜 \ 日局生理食
ペメトレキセド 500m	g/20mL ×()V		添加して約
ペメトレキセド 100ヶ	mg/4mL ×()V	100mL	
生食	100mL	X1B		
(持続点滴:10分)				
3) 生食	50mL	× 1B		
(持続点滴:全開で フラッシュ)	用)			
Ⅲ. 化学療法剤投与量算出		2 JH + 188 S		
	投与量 >	<備考欄>	› セド投与1週間以上前	- トロイ・パ ン・ドカン・ ナ
□前コースと投与量同じ(2コー			ゼト技子「週间以上削 え。②メチコバール注2	
=	cm) 体重(² 、	Kg) 「g連口内加	x, (()) = / · · / / / ± 2.	八石の西山に入り。
	m^2)			
PEM(ペメトレキセド)投	:与量(mg/	/body)		
= 500mg/m ² ×体表面積	${}$ (m^2) × (%)		
				_
		主治	医薬剤師	薬剤師
			重線の枠内を記入して	

I—————————————————————————————————————	a			
病棟•外来	化学療	まスロークシー	ート <vnb療法></vnb療法>	第コース
 I . 基本情報	_			
	PATIENTID	,—,,—,,—,,, 1	VNB療法プロトコール(every	3 weeks)
生年月日 @PA	ATIENTBIRTH3		day1 • •	· · · 8 · · · · · · · day22
患者氏名 @PA	TIENTNAME	VNE	3(ロゼウス) 25mg/m ² ↓	↓ next
 性別 @P	ATIENTSEXN	Į		in→
	ITAGEFORMATTED	Í		
	+ + .	12- 3の ():	*************************************	<u> </u>
	-· - ·	〈前コースの化学		年 月 日
□非小細胞腫	かかん	〈前コースの投-	与 重〉	
 告 知 □あり □	□ #>I	ロゼウス		
	なし		mg	
Ⅱ.化学療法実施過程		日人はり にた	到土仁,土然,英中2000年始	+7)
* 投与日当日のチェック	ク事項 (記載のない)	易合はDr. に唯	認を行った後、薬局3689に連絡 司 「	<u>(9 ති)</u>
				 B B
薬剤名		 数量	第1日目 第8 1	
采削石 	况怕	数里		
1) 生食	250mL	X1E	3	
(持続点滴メイン: 月	用法は備考欄を参照)			
2) ロゼウス	40mg/4mL	×()\	/	
ロゼウス	10mg/1mL	×()\		
生食	50mL	X1E	3	
(持続点滴側管:39	分)			
			_	
Ⅲ. 化学療法剤投与量	算出			
	< VNB投与量>		<備考欄>	
□前コースと投与量同	司じ(2コース目以降の	み)		- 度止めて側管開始。側管
身長(cm) 体重(Kg)	終了後、残液を全開でフラ	ッシュ。
体表面積(m^2)			か 「
VNB(ロゼウス	な)投与量(mg/body)	ため、短時間で投与する。	血自州の元丸ノハノ向よる
= 25mg/m ² ×体表				
20mg/ m ~ m1x	ш ig \	(
			主治医薬	剤師 薬剤師
			* Dr. が二重線の枠内を	 記入して
			開始前日10:30までに薬	

_{病棟・外来} <mark>化学療法ワークシート<weekly_nab−PTX療法(肺がん)></mark> 第

_I. 基本情報			
患者ID @PATIENTID	weekly_n	iab-PTX療法(肺がん)プロ	
生年月日 @PATIENTBIRTH3	nab-PTX(アブラキ		···8·····15·····22 ↓ ↓ next
│ 患者氏名	Illab FIX() > J-	→ → → → → → → → → → → → → → → → → → →	in→
性別 @PATIENTSEXN	1		
年齢 @PATIENTAGEFORMATTED			
〈疾患名〉	〈前コースの化学	療法開始日〉	年 月 日
	〈前コースの投与	量〉	
□ 非小細胞肺がん(進行・再発)	アブラキサン		
<u>告知□あり</u> □なし	m	ng	
Ⅱ. 化学療法実施過程 *投与日当日のチェック事項 (記載のない	場合はDr. に確認 	Rを行った後、薬局3689に	連絡する)
		第1日目 第8日目	第15日目
真	数量		
 1) グラニセトロン点滴バッグ 3mg/100mL	X 1B		アブラキサン: 1Vあたり20mLの
(持続点滴メイン:0.5時間)			生食で溶解、残り
			の生食は破棄し、
2) アブラキサン 100mg	×()V		空ボトルに必要採
生食 100mL (持続点滴メイン: 0.5時間)	X1B		取量を入れる。 懸濁液中に不溶物
(14.196)((2)-12.10.14.14.17			がないか目視で確
3) 生食 50mL	× 1B		認する。
(持続点滴メイン:全開で フラッシュ用)			
Ⅲ. 化学療法剤投与量算出		4 JH - 100 s	
<nab-ptx投与量></nab-ptx投与量>		<備考欄>	마마나 날 목 50 / 2
│ □前コースと投与量同じ(2コース目以降の │ 身長(cm) 体重()み) Kg)	一段階減量75mg/m²、二段溶解後に生食で希釈しない	
	Ng/	・フィルター付きルートを使用	用しない こ特定生物由来製剤伝票にシールを貼
		付する	
nab-PTX(アブラキサン)投与量(mg/body)	特定生物由来製剤のためアレルギーが出た場合、次	、同意書必要 マ回コースよりパクリタキセルに準じて
= 100mg/m ² ×体表面積(m ²)	× (%)	レスタミンコーワ錠10mg×5	5錠、ファモチジン注×1Aを前投薬とし
		て投与する。	
		主治医	薬剤師 薬剤師 薬剤師
			ф≠≘пат <i>т</i>
9 薬局改訂		* Dr. が二重線の枠 開始前日10:30まで	内を記入して に薬局へ提出してください。

2024/7/2